板橋区子ども読書活動推進計画 2025

板橋区教育委員会

はじめに

令和３年３月２８日、板橋区立中央図書館が平和公園内にリニューアル・オープンしました。特色は何といっても、いたばしボローニャ絵本館を併設している１階のフロアです。乳幼児、児童生徒から大人まで、そして親子連れ、家族連れのみなさまにも大いに楽しみ、学んでいただけるしつらえを工夫しております。ぜひ一度ご来館いただきたいと思います。

さて、「子どもの読書活動の推進に関する法律」では、読書活動の意義について、「読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」と記しています。また文化審議会の報告によれば「読書活動は、国語力を形成している『考える力』、『感じる力』、『想像する力』、『表す力』、のいずれにもかかわり、これらの力を育てる中核となるものである」とあります。これは現在、板橋区ですべての子どもたちに身に付けさせたい力である「読み解く力」の育成とも深いつながりをもっています。しかし、「学校読書調査」によれば、小学校から高等学校までの児童生徒の９割前後が「本を読むことは大切である」と認識しているにもかかわらず、５月の１か月間に１冊も本を読まなかった児童生徒の割合が、学年が進むにつれて高くなっています。

近年、子どもを取り巻く環境は大きく変化しています。中でも、ゲームやインターネットの普及により、いつでも、どこでも簡単に欲しい情報を手に入れやすくなっています。このように高度情報化が進み利便性が良くなる半面、ゲームやインターネットに費やす時間が増え、読書活動などに親しむ時間が減るなど子どもの発達に及ぼす影響が心配されています。

【子どもを読書の世界に誘う３つの役割】

（家庭の役割）子どもにとっての「本との出会い」は家庭から始まります。乳幼児は家庭で絵本などを読み聞かせてもらうことで、愛情を感じながら本の楽しさに出会い、本との距離を縮めます。ぜひ、家庭において、子どもと一緒に本を読んだり、図書館等に出かけ読み聞かせなどに積極的に参加したりしていただくことを願っています。

（学校の役割）学校は、読書への興味を起こさせ、本の世界への道案内をする上で、とても大きな役割を担っています。学校図書館機能の充実を図り、子どもたちの心安らぐ居場所としての環境づくりに努めていただくことを願っています。

（図書館の役割）図書館は自由に読みたい本を選び、調べ学習に必要な資料が備わっている子どもたちの読書活動を推進するための重要な場所として魅力ある図書を置くことはもちろん、読書活動に関する情報を発信し、定期的に読み聞かせやお話し会など積極的に読書活動に関する啓発や事業を進めてまいります。

結びに、本計画作成にご協力いただいたみなさまに心から御礼申し上げます。

令和３年５月

板橋区教育委員会
教育長　中川 修一

目　次

第１章　計画策定の意義
１　計画策定の背景 2
２　第二期計画の評価 3
（１）総括 3
（２）読書についてのアンケート集計結果（抜粋） 5
（３）重点事業の実施状況 15
（４）取組事業に対する評価（57 事業） 16
（５）成果指標 18
３　国の動向 19
４　東京都の動向 20
第２章　基本方針
１　計画の目標 22
２　基本方針 22
（１）子どもの読書のための環境の整備・充実 22
（２）子どもの年齢・発達の段階に応じた取組 22
（３）家庭・地域・学校との協力、連携による取組 23
３　計画の期間 24
４　計画の位置づけ 25
５　重点施策 26
６　進行管理 27
第３章　具体的な取組
板橋区子ども読書活動推進計画 2025 アクションプラン 31
１　子どもの年齢・発達の段階に応じた取組 36
（１）乳幼児を対象とした取組 37
（２）小学生を対象とした取組 40
（３）中学生を対象とした取組 45
（４）中高生（ティーンズ）世代を対象とした取組 49
（５）特別な支援を必要とする子どもたちへの取組 51
２　家庭・地域・学校との協力、連携による取組 53
第４章　参考資料
第三期板橋区子ども読書活動推進計画検討委員会設置要領 58
第三期板橋区子ども読書活動推進計画検討委員会委員名簿 60
第三期板橋区子ども読書活動推進計画検討委員会検討経過 62
子どもの読書活動の推進に関する法律 63

第１章

計画策定の意義

１　計画策定の背景

２　第二期計画の評価

３　国の動向

４　東京都の動向

第１章　計画策定の意義

１　計画策定の背景

国では、子どもの読書活動の推進に関する法律（平成 13 年 12 月 12 日法律第 154 号）に基づき、概ね５年にわたる子どもの読書活動の推進に関する基本方針と具体的方策を示した第四次計画を平成 30 年４月に策定しています。

基本理念には、子どもの読書活動は「子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない」とあります。

国や東京都の計画を踏まえて、板橋区では５年間の計画として、第１期計画（平成 23 年度～平成 27 年度）及び第２期計画（平成 28 年度～令和２年度）を策定してきました。

令和２年度には、第２期計画期間の最終年度を迎えるため、第３期計画（令和３年度～令和７年度）を策定する検討委員会を設置し、引き続き５年間の計画策定を進めてきました。

今回策定した計画の考え方は、国の第四次計画の方針及び新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」の指針に基づいています。また、学習指導要領総則には、「何が起こるか分からない時代で生きるために必要とされる資質能力育成」のための中核能力として、①言語能力、②情報活用能力、③問題発見・解決能力が挙げられています。この三つの能力の基盤になるのは①の言語能力と言われています。基盤となる言語能力を育む一つの効果として、読書を勧め、読書の習慣を形成していくことが重要と言われています。

第３期となる本計画においては、乳幼児期からの「読み聞かせ」の機会を充実していくことをはじめ、「学校図書館の積極的な活用」や「学校図書館と区立図書館との連携を強化する」ことを中心に取り組んでいきます。

なお、読書を推進するにあたっては、学力向上や資質能力の育成に大きく貢献することをはじめ、日常生活ではなかなか得られない経験や疑似体験を通して、本を読むことの「楽しさ」や本の「魅力」を、多くの子どもたちに伝えられるよう、成長時期にあわせた取組を展開していきます。

２　第２期計画の評価

（１）総括

第２期計画は、２つの重点事業（15 ページ参照）及び具体的な 57 の取組事業（新規 15、拡充 14、継続 28）で構成しました。具体的な 57 の取組事業は、家庭・地域・学校・図書館における取組が、学力の向上・読書率の向上・図書館利用率の向上に資するように、就学前から中学生までを対象にしています。

中央図書館では毎年、所管課から計画事業の実施報告を受けて事業全体の進行管理を行ってきました。そしてこの５か年（平成 28 年度～令和２年度）、取組事業は概ね順調に実施（16・17 ページ参照）されてきました。一部遅延となった、「１（８）児童コーナー（室）の利用時間拡大」も、令和３年３月に新中央図書館が移転オープンし、児童コーナーは 20 時まで利用時間を拡大しました。これにより、区内全図書館の児童コーナー（室）の利用時間が拡大されました。

さて、第２期の計画では、平成 28 年度の調査時から、令和２年度には不読率（１か月に１冊も本を読まなかった率）を３割減とする不読率の減少を目標（18 ページ参照）に掲げて、毎年、小学校６校全学年、中学校２年生を対象に、読書の傾向について調査してきました。

小学校では、平成 28 年度に 6.5％の不読率を令和２年度に 4.6％まで減少すること、中学校では、平成 28 年度に 10.5％の不読率を令和２年度に 7.4％まで減少することを目標値として、読書の傾向を見てきた調査の集計結果（抜粋）は、５ページから 14 ページにあるとおりです。

小学校は令和２年度に 10.1％と 3.6 ポイント上昇し、目標は達成しませんでした。「本を読まなかった理由」で一番多いのは、「読みたい本がなかったから」の 28.3％で、次いで、「読書が好きではないから」の 24.4％でした。「読みたい本がない」と回答する背景には、読みたい本を自分で探せないこと、何を読んでよいのかわからないこと、今までに読んだ本以外に本の世界や魅力を知らないこと、自分の年齢や興味を持って読める本を誰に聞いたらよいかわからないことなどが推察されます。また、今回の調査で対象外としていた「漫画本、雑誌、新聞、教科書・参考書・辞典」を読んでいるとの回答もありました。その他、「忙しかったから」、「遊んでいたから」の回答がそれぞれ約 13％あり、本を読まなかった理由には複数の要因があると思われます。

令和２年度の調査では、電子書籍も読んだ本に含まれていますが、電子書籍には漫画本や雑誌が多く、書籍のジャンルも限られているのが現状です。今後はＧＩＧＡスクール構想によるＩＣＴの積極的な活用が進みます。学習利用だけではない活用方法や電子書籍の活用を想定した読書のあり方を検討していく必要があります。インターネット閲覧や検索機能を生かした本の情報提供など、場所や時間を限定しないサービスを検討します。また、活字の多い読書を敬遠しがちな子どもには、芸術性や物語性の高い絵本や学習漫画を積極的に紹介し、本を見

る、本を読むことに興味を持たせるきっかけを取組の一つの手法としていきます。本から得られる楽しみや喜びを実感してもらえるよう、様々な切り口から本の紹介を行い、引き続き不読率の減少に努めます。

中学校は、令和元年度に 7.3%と不読率が減少しましたが、最終年度の令和２年度には 12.2%と 4.9 ポイント上昇となりました。令和２年度は、コロナウイルス感染拡大の影響により、休校期間が長期化して外出も制限されるなど、読書活動を阻害する要因もあったと思われます。

「本を読まなかった理由」で一番多かったのは、「読みたい本がなかったから」の 61.4%で、次いで、「本を読むことに興味がない」の 59.8%でした。「読みたい本がない」と回答する背景には、小学生と同様、読みたい本を自分で探せないこと、何を読んでよいのかわからないことが主な要因と思われます。幼少期からの読書が身に付いていないために、物語の世界や作品の魅力を知らないこと、本を読むより楽しいと思えるゲームや動画に時間を費やしていることなどが推察されます。また、中学生は部活動や学習塾に多くの時間を割いていることもあり、本を読むことに興味がない実際の理由には、本の好き嫌いよりも他のやりたいことに興味が強いこと、「本を読む時間がない」の回答からも、時間的制約によるやりたいことの優先順位が低調になることが推察されます。小学生と同様に複数の要因はありますが、中学生の読書時間が少しでも増えるよう「ブックトーク」や「ビブリオバトル」など体験型イベントを中心とした本の紹介を行い、本を読む楽しさが伝わる取組により不読率の減少に努めます。

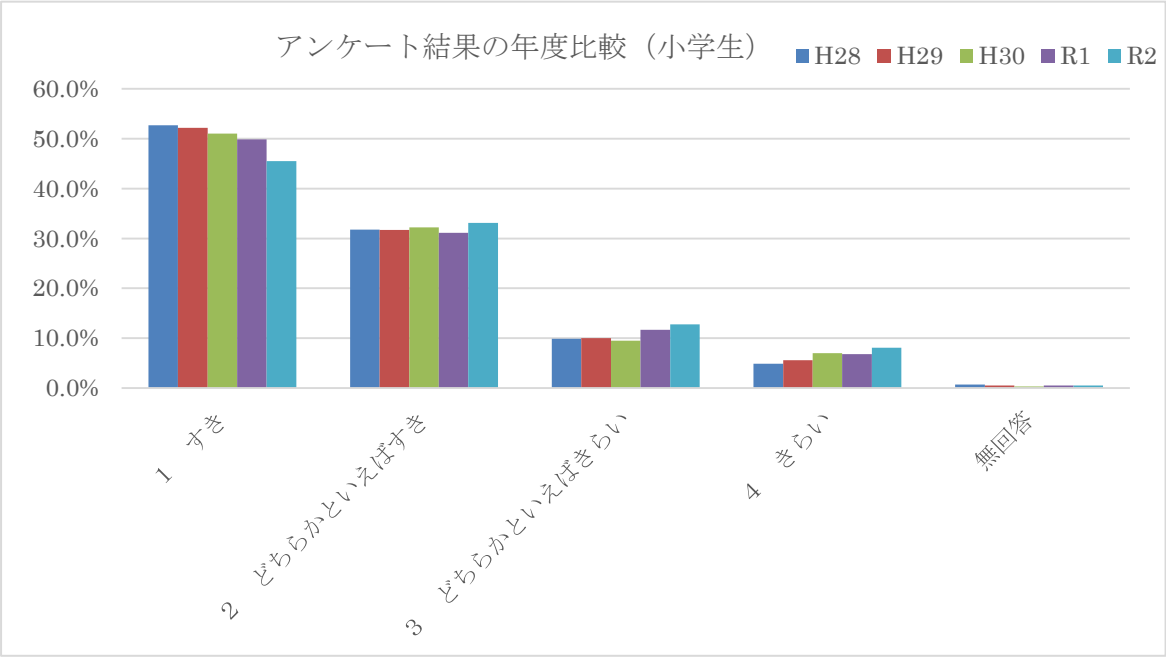
なお、児童館、保育園、幼稚園に通う保護者に調査した「読書についてのアンケート」で、家に子ども向けの本や絵本が何冊あるかの問いに、「10 冊以上」82.5%、「５冊～10 冊未満」9.4%、「１冊～５冊」4.4%の回答があり、全体の 96.3%は家に子ども向けの本や絵本があることがわかりました。「無回答」3.7%と「ない」0%の回答からも、子ども向けの本を置いていない家庭はないと思われ、家庭における幼少期からの読書活動は、どの家庭においても行われている結果となりました。本計画でも引き続き、「親子による読み聞かせ」を中心とした家庭読書の定着と、毎月 23 日を「家庭読書（うちどく）の日」と定めて推奨していることへのＰＲを更に強化していきます。

（２）読書についてのアンケート集計結果（抜粋）

小学生：本を読むことの好き嫌い　　平成 28 年度～令和２年度

	年度	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	全体
1 すき	R2	60.9%	48.4%	45.1%	42.6%	39.4%	35.2%	45.5%
	R1	67.0%	54.3%	48.4%	46.3%	41.7%	41.6%	49.9%
	H30	68.2%	57.5%	49.0%	44.2%	42.0%	44.8%	51.0%
	H29	65.3%	57.7%	50.5%	46.8%	50.6%	41.1%	52.2%
	H28	62.4%	58.9%	54.5%	54.3%	45.5%	40.7%	52.7%
2 どちらか といえば すき	R2	23.2%	31.7%	38.1%	37.9%	32.8%	36.3%	33.1%
	R1	18.3%	31.4%	37.9%	33.3%	34.4%	31.8%	31.1%
	H30	20.8%	29.3%	37.2%	35.9%	34.6%	36.1%	32.2%
	H29	24.3%	32.1%	33.6%	35.0%	32.1%	33.6%	31.7%
	H28	25.7%	30.1%	31.9%	33.9%	34.0%	35.2%	31.8%
3 どちらか といえば きらい	R2	8.1%	10.1%	10.2%	11.2%	19.0%	18.6%	12.8%
	R1	5.6%	8.2%	7.9%	13.7%	15.9%	18.9%	11.7%
	H30	5.1%	7.6%	8.3%	10.9%	13.5%	11.7%	9.5%
	H29	4.2%	5.9%	9.5%	11.3%	12.4%	16.8%	10.0%
	H28	6.1%	5.2%	9.0%	9.2%	14.9%	15.1%	9.9%
4 きらい	R2	7.2%	9.2%	5.9%	7.9%	8.8%	9.7%	8.1%
	R1	8.7%	4.9%	5.8%	6.1%	7.6%	7.6%	6.8%
	H30	5.2%	5.0%	5.5%	9.0%	9.4%	7.4%	7.0%
	H29	5.1%	4.1%	6.2%	6.3%	4.3%	8.3%	5.6%
	H28	4.8%	4.9%	3.7%	2.0%	5.6%	8.4%	4.9%

※無回答及び特別支援の集計は、記載を省略した。



（小学生：集計結果）

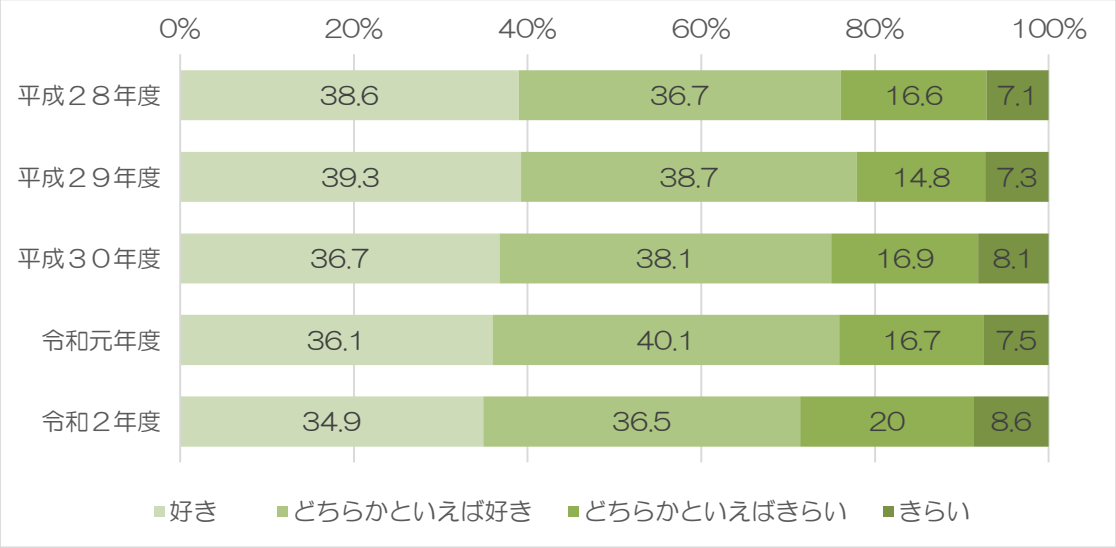
５か年の推移に大きな変動はないものの、「すき」の割合は、平成 28 年度の 52.7%から令和２年度の 45.5%と 7.2 ポイント減少し、「どちらかといえばすき」の割合は、平成 28 年度の 31.8%から令和２年度の 33.1%と 1.3 ポイント増加している。

また、「どちらかといえばきらい」の割合は、平成 28 年度の 9.9%から令和２年度の 12.8%と 2.9 ポイント増加し、「きらい」の割合は、平成 28 年度の 4.9%から令和２年度の 8.1%と 3.2 ポイント増加している。

「すき」と「どちらかといえばすき」の合計は、平成 28 年度の 84.5%から令和２年度の 78.6%と 5.9 ポイント減少し、「きらい」と「どちらかといえばきらい」の合計は、平成 28 年度の 14.8%から令和２年度の 20.9%と 6.1 ポイント増加している。

全体的に読書を好まない傾向が年々増加傾向にあり、特に、学年が上がるにつれて「きらい」の割合が高くなる傾向となっている。

中学生：本を読むことの好き嫌い　　平成 28 年度～令和２年度



（中学生：集計結果）

５か年の推移に大きな変動はないものの、「好き」の割合は、平成 28 年度の 38.6%から令和２年度の 34.9%と 3.7 ポイント減少し、「どちらかといえば好き」の割合は、平成 28 年度の 36.7%から令和２年度の 36.5%と 0.2 ポイント減少している。

また、「どちらかといえばきらい」の割合は、平成 28 年度の 16.6%から令和２年度の 20.0%と 3.4 ポイント増加し、「きらい」の割合は、平成 28 年度の 7.1%から令和２年度の 8.6%と 1.5 ポイント増加している。

「好き」と「どちらかといえば好き」の合計は、平成 28 年度の 75.3%から令和２年度の 71.4%と 3.9 ポイント減少し、「きらい」と「どちらかといえばきらい」の合計は、平成 28 年度の 23.7%から令和２年度の 28.6%と 4.9 ポイント増加している。

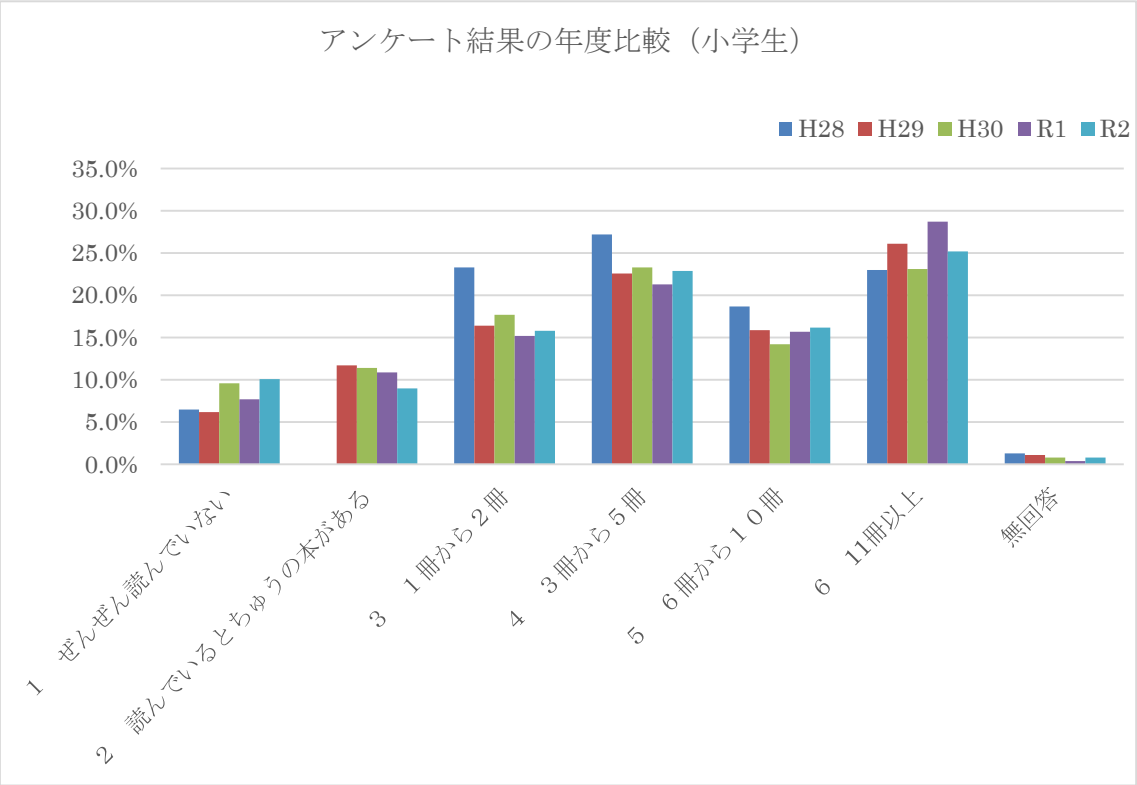
全体的に読書を好まない傾向が年々増加傾向にある。

小学生：１か月に何冊本を読むか（不読率）　　平成 28 年度～令和２年度

	年度	１年	２年	３年	４年	５年	６年	全体
１ ぜんぜん読んでいない	R2	5.3%	5.8%	8.6%	10.8%	14.8%	15.7%	10.1%
	R1	4.3%	4.2%	7.9%	10.0%	9.4%	10.9%	7.7%
	H30	2.7%	3.5%	10.2%	13.2%	15.6%	12.1%	9.6%
	H29	1.9%	2.9%	5.2%	6.3%	8.3%	13.0%	6.2%
	H28	2.1%	3.7%	7.0%	2.7%	10.2%	12.8%	6.5%
２ 読んでいるとちゅうの本がある	R2	8.8%	8.1%	8.2%	7.4%	10.9%	10.8%	9.0%
	R1	12.2%	5.8%	10.6%	11.1%	12.5%	13.5%	10.9%
	H30	7.4%	9.7%	8.1%	12.7%	14.6%	15.6%	11.4%
	H29	11.2%	7.9%	9.8%	10.4%	13.5%	18.4%	11.7%
３ １冊から２冊	R2	13.6%	15.2%	11.4%	16.1%	16.1%	22.4%	15.8%
	R1	10.4%	10.2%	10.1%	16.5%	22.1%	20.7%	15.2%
	H30	14.6%	16.7%	13.9%	16.2%	21.1%	23.6%	17.7%
	H29	12.0%	13.0%	13.6%	16.5%	20.8%	23.1%	16.4%
	H28	20.1%	15.1%	20.3%	20.3%	29.2%	34.9%	23.3%
４ ３冊から５冊	R2	14.1%	23.5%	25.0%	24.0%	26.6%	24.9%	22.9%
	R1	13.9%	17.2%	20.7%	21.3%	26.1%	28.8%	21.3%
	H30	20.6%	19.6%	21.6%	26.8%	22.2%	28.1%	23.3%
	H29	13.1%	18.2%	24.0%	26.0%	29.5%	24.7%	22.6%
	H28	15.7%	25.8%	27.2%	31.7%	31.2%	31.9%	27.2%
５ ６冊から10冊	R2	16.5%	17.1%	18.0%	15.7%	16.4%	13.2%	16.2%
	R1	13.0%	17.4%	17.0%	20.9%	14.1%	12.0%	15.7%
	H30	15.7%	15.7%	19.2%	14.3%	11.1%	9.3%	14.2%
	H29	13.0%	19.3%	21.2%	16.4%	14.5%	9.5%	15.9%
	H28	21.6%	20.3%	19.7%	26.0%	15.3%	10.1%	18.7%
６ 11冊以上	R2	39.8%	29.3%	28.2%	25.7%	15.0%	12.8%	25.2%
	R1	45.2%	43.9%	33.5%	20.0%	15.8%	14.0%	28.7%
	H30	37.6%	32.8%	26.6%	16.4%	15.0%	11.3%	23.1%
	H29	44.2%	38.4%	25.9%	23.6%	12.8%	11.1%	26.1%
	H28	37.8%	32.5%	24.5%	18.7%	14.1%	10.1%	23.0%

※２の回答は、平成 29 年度から新たに追加した。

※無回答及び特別支援の集計は、記載を省略した。



（小学生：集計結果）

「ぜんぜん読んでいない」の割合は、平成 28 年度の 6.5%から令和２年度の 10.1%と 3.6 ポイント増加し、その結果、目標値の 4.6%に対して 5.5 ポイント増加となり、目標を達成する結果は得られなかった。

学年別で見ると、平成 28 年度の調査時は、１年 2.1%、２年 3.7%、３年 7.0%、４年 2.7%、５年 10.2%、６年 12.8%で令和２年度には、１年 5.3%、２年 5.8%、３年 8.6%、４年 10.8%、５年 14.8%、６年 15.7%と全ての学年で不読率が悪化している。学年が上がるにつれて不読率は大きくなり、特に、４年での不読率が 8.1 ポイント増加と悪化している。

一方で、読んだ本の冊数が「11 冊以上」と回答した割合は、平成 28 年度と令和２年度を学年別で比較すると、１年 37.8%から 39.8%、２年 32.5%から 29.3%、３年 24.5%から 28.2%、４年 18.7%から 25.7%、５年 14.1%から 15.0%、６年 10.1%から 12.8%と、２年を除いては本を多く読む割合が増加している。不読率を引き上げている４年で特に本を多く読む割合が伸びており 7.0 ポイント増加している。不読率の割合が高くなる一方で、本を多く読む割合も高いのが４年の特徴となっており、二分化の傾向が目立つ結果となった。

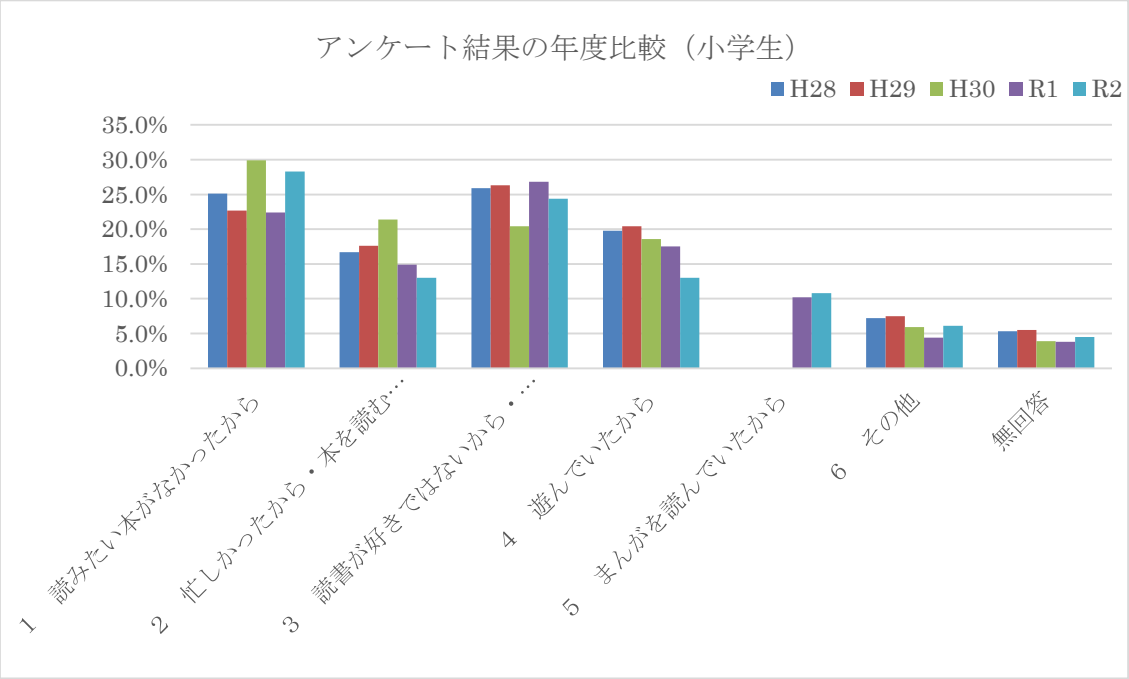
小学生：本を読まない理由　　平成 28 年度～令和２年度

	年度	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	全体
1 読みたい本がなかったから	R2	31.4%	23.2%	26.2%	28.6%	31.8%	26.4%	28.3%
	R1	16.7%	18.8%	14.9%	16.0%	29.2%	28.9%	22.4%
	H30	28.6%	10.5%	34.9%	25.6%	28.9%	35.6%	29.9%
	H29	10.0%	23.5%	19.5%	26.3%	30.3%	19.8%	22.7%
	H28	33.3%	35.0%	17.0%	26.3%	28.6%	23.2%	25.1%
2 忙しかったから・本を読む時間がなかったから	R2	13.7%	17.9%	14.8%	12.9%	12.4%	10.7%	13.0%
	R1	16.7%	6.3%	25.5%	16.0%	13.5%	11.8%	14.9%
	H30	7.1%	5.3%	30.2%	15.6%	19.3%	29.9%	21.4%
	H29	20.0%	5.9%	19.5%	21.1%	21.4%	15.4%	17.6%
	H28	33.3%	10.0%	27.6%	15.8%	9.5%	15.2%	16.7%
3 読書が好きではないから・本を読みたくないから・つまらない	R2	9.8%	23.2%	26.2%	25.7%	22.5%	30.0%	24.4%
	R1	25.0%	25.0%	29.8%	32.0%	19.1%	30.3%	26.8%
	H30	0.0%	15.8%	15.9%	31.1%	21.9%	14.9%	20.4%
	H29	0.0%	23.5%	24.4%	21.0%	25.0%	33.0%	26.3%
	H28	6.7%	20.0%	23.4%	31.6%	20.6%	33.3%	25.9%
4 遊んでいたから	R2	5.9%	14.3%	13.1%	17.1%	12.4%	13.6%	13.0%
	R1	4.2%	25.0%	10.6%	25.3%	20.2%	11.8%	17.5%
	H30	14.3%	47.4%	7.9%	23.3%	21.1%	12.6%	18.6%
	H29	10.0%	23.5%	19.5%	21.0%	16.1%	23.1%	20.4%
	H28	0.0%	10.0%	23.4%	15.8%	20.6%	23.2%	19.8%
5　まんがを読んでいたから	R2	2.0%	12.5%	14.8%	8.6%	11.6%	12.1%	10.8%
	R1	4.2%	9.4%	8.5%	6.7%	15.7%	10.5%	10.2%
6 その他	R2	0.0%	5.4%	4.9%	7.1%	8.5%	6.4%	6.1%
	R1	8.3%	6.3%	4.3%	4.0%	2.2%	5.3%	4.4%
	H30	0.0%	5.3%	6.3%	3.3%	7.9%	6.9%	5.9%
	H29	0.0%	5.9%	12.2%	5.3%	5.4%	8.8%	7.5%
	H28	6.7%	0.0%	4.3%	10.5%	15.9%	4.1%	7.2%

※令和元年度から５の回答を追加した。

※無回答及び特別支援の集計は、記載を省略した。

※網掛けは、各学年、各年度の上位回答。



（小学生：集計結果）

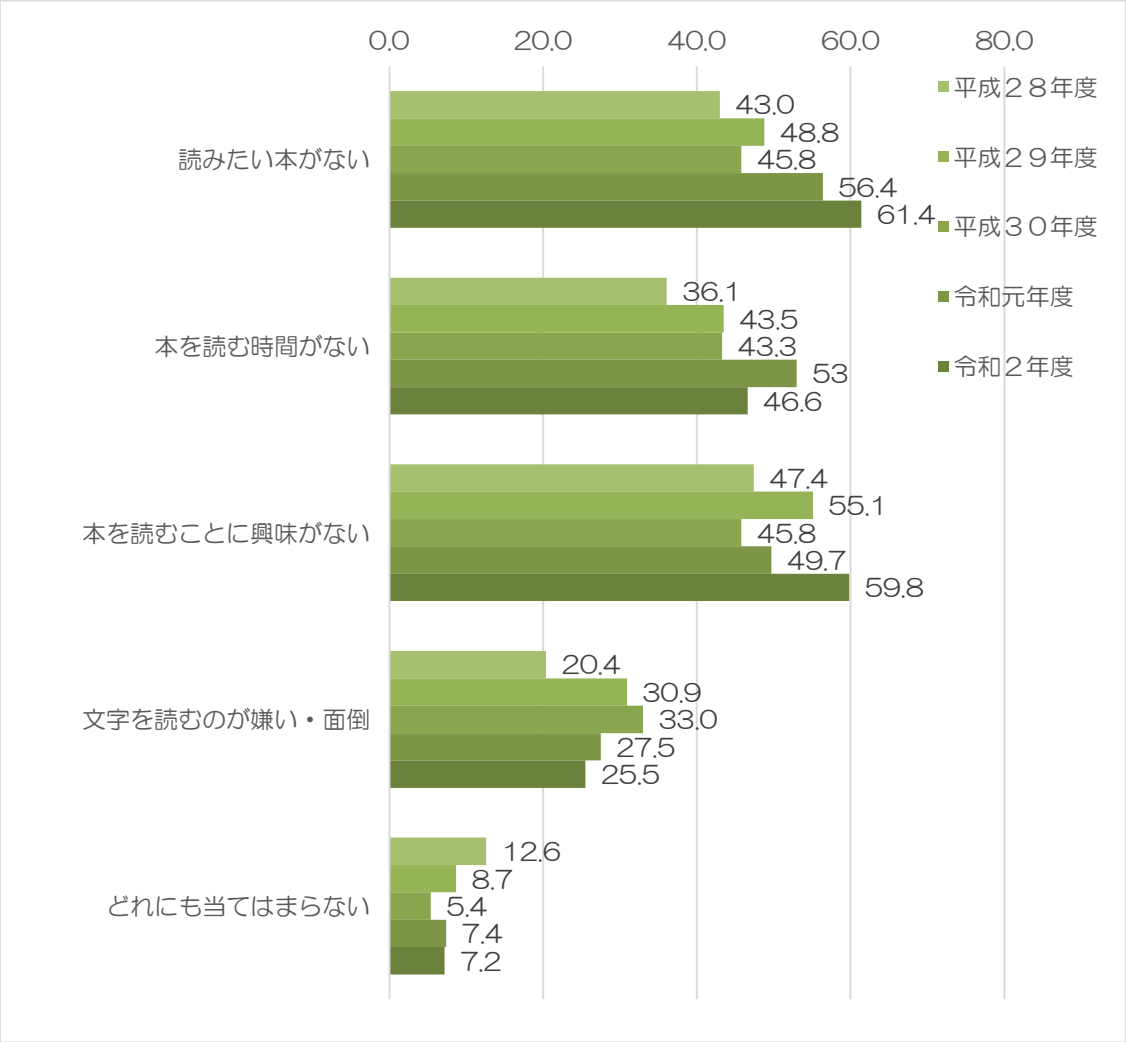
本を読まない理由で多かったのは、「読みたい本がなかったから」と「読書が好きではないから・本を読みたくないから・つまらない」の回答でした。

各年度の学年別の上位回答は、次の表のとおりです。

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和２年度
１年	読みたい本がない 忙しい	忙しい	読みたい本がない	読書が好きでない	読みたい本がない
２年	読みたい本がない	読みたい本がない 読書が好きでない 遊んでいた	遊んでいた	読書が好きでない 遊んでいた	読みたい本がない 読書が好きでない
３年	忙しい	読書が好きでない	読みたい本がない	読書が好きでない	読みたい本がない 読書が好きでない
４年	読書が好きでない	読みたい本がない	読書が好きでない	読書が好きでない	読みたい本がない
５年	読みたい本がない	読みたい本がない	読みたい本がない	読みたい本がない	読みたい本がない
６年	読書が好きでない	読書が好きでない	読みたい本がない	読書が好きでない	読書が好きでない

どの学年においても「読みたい本がない」と「読書が好きでない」の回答が上位を占める結果となり、本を読まない大きな要因となることがわかりました。

中学生：本を読まない理由　　平成 28 年度～令和２年度



（中学生：集計結果）

本を読まない理由で多かったのは、「読みたい本がない」と「本を読むことに興味がない」の回答でした。各年度の上位回答は、次の表のとおりです。

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和２年度
読むことに興味がない	読むことに興味がない	読みたい本がない 読むことに興味がない	読みたい本がない	読みたい本がない

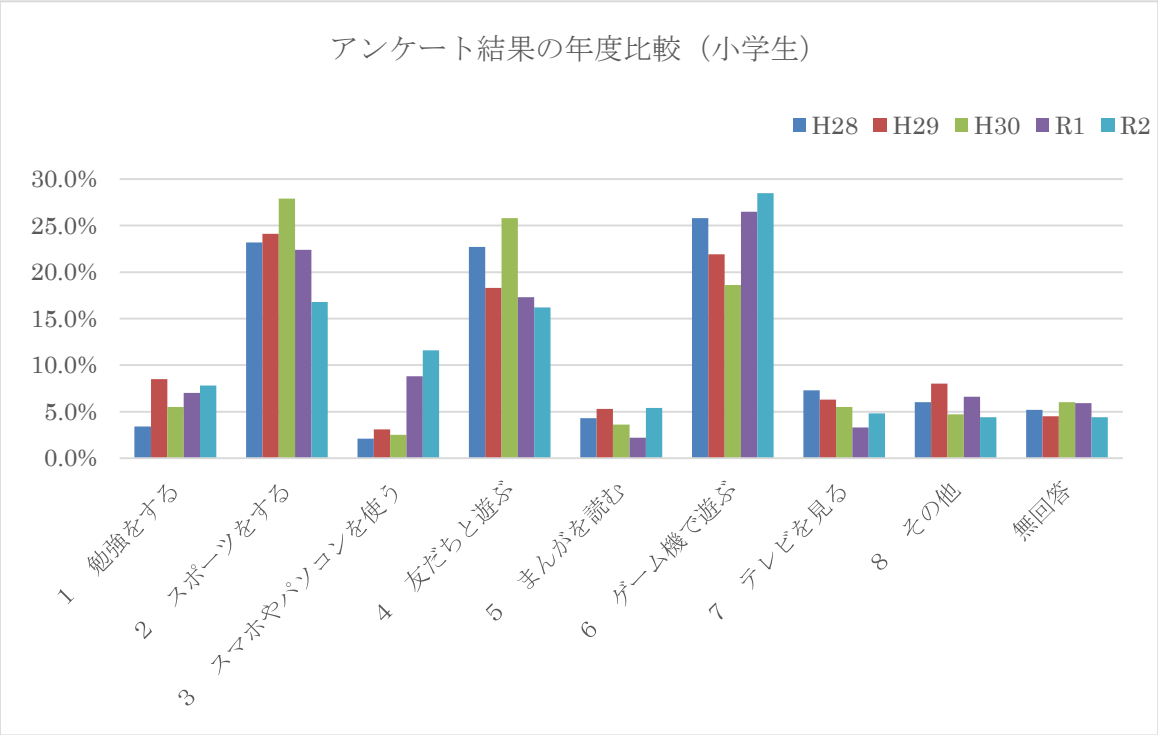
この調査は、主に中学２年を対象に、中学校が独自に調査・集計しているもので、小学校と設問や回答が異なりますが、「読みたい本がない」、「読むことに興味がない」が本を読まない理由の上位を占めています。また、中学生は部活動や塾など、授業終了後の様々な活動に時間を費やすことが多いことから、「本を読む時間がない」理由も多くの回答があり、本を読まない大きな要因となることがわかりました。

小学生：本を読むより、やりたいこと　　平成28年度～令和２年度

	年度	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体
1 勉強をする	R2	8.9%	9.2%	9.6%	8.9%	9.5%	3.4%	7.8%
	R1	6.3%	4.2%	2.4%	7.4%	5.1%	12.9%	7.0%
	H30	0.0%	0.0%	8.5%	2.3%	3.9%	11.0%	5.5%
	H29	10.0%	13.3%	8.8%	2.6%	9.1%	10.0%	8.5%
	H28	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.7%	2.7%	3.4%
2 スポーツをする	R2	16.5%	15.4%	5.8%	23.2%	18.3%	18.5%	16.8%
	R1	9.4%	8.3%	19.5%	31.5%	25.4%	25.8%	22.4%
	H30	7.1%	20.0%	28.8%	27.9%	33.0%	26.8%	27.9%
	H29	20.0%	20.0%	23.5%	18.4%	30.9%	22.8%	24.1%
	H28	16.7%	17.4%	25.0%	33.3%	23.4%	22.7%	23.2%
3 スマホやパソコンを使う	R2	8.9%	12.3%	15.4%	12.5%	10.3%	12.6%	11.6%
	R1	0.0%	12.5%	7.3%	9.3%	10.2%	11.3%	8.8%
	H30	7.1%	0.0%	1.7%	4.7%	1.0%	2.4%	2.5%
	H29	0.0%	0.0%	2.9%	7.9%	0.0%	2.9%	3.1%
	H28	8.3%	0.0%	4.5%	0.0%	1.6%	1.3%	2.1%
4 友だちと遊ぶ	R2	12.7%	18.5%	15.4%	8.9%	17.5%	20.2%	16.2%
	R1	6.3%	20.8%	12.2%	16.7%	20.3%	22.6%	17.3%
	H30	14.3%	20.0%	23.7%	24.4%	29.1%	28.0%	25.8%
	H29	0.0%	13.3%	5.9%	23.7%	14.5%	28.6%	18.3%
	H28	0.0%	17.4%	20.5%	26.7%	21.8%	29.3%	22.7%
5 まんがを読む	R2	2.5%	10.8%	7.7%	3.6%	4.0%	5.9%	5.4%
	R1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.1%	4.8%	2.2%
	H30	0.0%	0.0%	1.7%	5.8%	2.9%	4.9%	3.6%
	H29	0.0%	13.3%	5.9%	2.6%	7.3%	4.3%	5.3%
	H28	0.0%	0.0%	4.5%	0.0%	9.4%	2.7%	4.3%
6 ゲーム機で遊ぶ	R2	30.4%	21.5%	36.5%	35.7%	24.6%	28.6%	28.5%
	R1	21.9%	41.7%	43.9%	27.8%	22.0%	14.5%	26.5%
	H30	7.1%	30.0%	16.9%	29.1%	14.6%	13.4%	18.6%
	H29	10.0%	33.4%	26.5%	21.1%	27.3%	15.7%	21.9%
	H28	16.7%	30.4%	25.0%	26.7%	25.0%	26.6%	25.8%
7 テレビを見る	R2	5.1%	4.6%	1.9%	1.8%	4.0%	7.6%	4.8%
	R1	3.1%	0.0%	2.4%	3.7%	3.4%	4.8%	3.3%
	H30	0.0%	0.0%	10.2%	3.5%	5.8%	4.9%	5.5%
	H29	0.0%	0.0%	11.8%	5.3%	9.1%	4.3%	6.3%
	H28	8.3%	13.0%	4.5%	0.0%	9.4%	6.7%	7.3%

※無回答、その他、特別支援の集計は、記載を省略した。

※網掛けは、各学年、各年度の上位回答。



（小学生：集計結果）

本を読むよりやりたいことで最も多かったのは、「ゲーム機で遊ぶ」で、令和２年度は全ての学年において上位の回答でした。

各年度の学年別の上位回答は、次の表のとおりです。

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和２年度
１年	勉強をする	スポーツをする	友だちと遊ぶ	ゲーム機で遊ぶ	ゲーム機で遊ぶ
２年	ゲーム機で遊ぶ	ゲーム機で遊ぶ	ゲーム機で遊ぶ	ゲーム機で遊ぶ	ゲーム機で遊ぶ
３年	スポーツをする ゲーム機で遊ぶ	ゲーム機で遊ぶ	スポーツをする	ゲーム機で遊ぶ	ゲーム機で遊ぶ
４年	スポーツをする	友だちと遊ぶ	ゲーム機で遊ぶ	スポーツをする	ゲーム機で遊ぶ
５年	ゲーム機で遊ぶ	スポーツをする	スポーツをする	スポーツをする	ゲーム機で遊ぶ
６年	友だちと遊ぶ	友だちと遊ぶ	友だちと遊ぶ	スポーツをする	ゲーム機で遊ぶ

年度や学年によって、「スポーツをする」や「友だちと遊ぶ」などの理由が上位を占めていますが、全体的には「ゲーム機で遊ぶ」の理由が多い結果となりました。

ＩＣＴの活用を視野に入れ、遊びの要素を上手く取り入れた本の紹介を行うなど、多様な時代における読書のあり方を検討していきます。

（３）重点事業の実施状況

①読書通帳の積極的活用

作成及び配布状況

	小学校	中学校
平成 29 年度	新規作成・配布 全校全児童	新規作成・配布 全校全生徒
平成 30 年度	継続・配布 ・全校の新一年生 ・区外転入の児童	継続・配布 ・全校の新一年生 ・区外転入の生徒
令和元年度		
令和２年度		

②絵本づくりの推進

絵本づくりワークショップ実施状況

小学生	参加者	実施先
平成 28 年度	１２０人	小学校１校 （志村第六小）
平成 29 年度	２２０人	小学校３校 （志村第六小、常盤台小、向原小）
平成 30 年度	４１５人	小学校６校 （若木小、常盤台小、中根橋小、 板橋第七小、板橋第十小、向原小）
令和元年度	１８３人	区立図書館 11 館 （区内在学・在住の小学生）
令和２年度	１１６人	

中学生	参加者	実施先
令和元年度	２１人	いたばしボローニャ子ども絵本館 （区立中学在学の中学生）
令和２年度	２３人	

（４）取組事業に対する評価（57 事業）

所管課による報告（実績・計画）を毎年進行管理した結果、個別取組に対する評価は表１のとおりとなりました。

引き続き、進行管理が必要な事業は「継続」または「拡充」して計画に反映します。また、「達成」、「順調」により「終了」する事業と、新たに計画に位置づける「新規」事業を整理し、57 事業から 64 事業へと編成しました。

第２期計画取組の評価、第３期計画への反映は、次のように設定します。

第２期計画取組の評価

１　達成（計画どおり実施し、目標を達成したもの）
２　順調（計画どおり順調に実施したもの）

第３期計画への反映

１　新規（新たに計画に位置づけて、進行管理していくもの）
２　拡充（引き続き計画に位置づけて、今後の取組を拡大・充実していくもの）
３　継続（引き続き計画に位置づけて、定着化していくもの）
４　終了（第２期計画期間に目標を達成したもの。第３期計画で他事業と整理・統合したもの。既に定着しており、第３期計画では進行管理が不要となったもの）

表１　第２期計画取組事業及び評価

目標	取組	評価	第３期計画への反映
１　子どもの読書のための環境の整備・充実	(1)図書館整備	達成	終了
	(2)区民懇談会等の実施	達成	終了
	(3)図書貸出サービスコーナーの設置	順調	終了
	(4)ホームページの充実・ＳＮＳの活用	順調	継続
	(5)家庭読書の日の充実	順調	継続
	(6)いたばしボローニャ子ども絵本館の充実	順調	終了（移転による）
	(7)ＩＣＴ機器の導入	達成	終了
	(8)児童コーナー（室）の利用時間拡大	達成	終了
	(9)児童コーナー展示の工夫	順調	拡充（工夫→充実）
	(10)乳幼児向け蔵書の充実	順調	拡充
	(11)各施設の読書コーナーの支援	順調	拡充（11～13 整理）
	(12)親子ふれｉブックコーナー	順調	
	(13)各幼稚園の読書コーナーの充実	順調	
	(14)学校貸出資料の充実	順調	拡充
	(15)読書通帳	順調	継続・新規含む
	(16)学校図書館全体計画・年間活用計画の作成	順調	終了（定着）
	(17)学校図書館運営委員会の設置	順調	終了（定着）
	(18)学校図書館の充実	順調	拡充
	(19)学校図書館司書機能の充実	順調	終了（定着）
	(20)ＹＡ(ヤングアダルト)向け蔵書の充実	順調	拡充

2 子どもの年齢・発達の段階に応じた取組	(1)ブックスタート	順調	継続
	(2)読み聞かせおすすめ本リストの作成	順調	拡充（年代別記載）
	(3)かるがもタイムの充実	順調	継続
	(4)乳幼児向け館内イベントの開催	順調	拡充
	(5)図書館ボランティアを活用した乳幼児向け事業	順調	拡充（他事業整理）
	(6)「赤ちゃんの駅」等に図書館利用案内	順調	終了（定着）
	(7)親子読み聞かせ講座	順調	拡充
	(8)おはなし会の実施	順調	拡充（9整理）
	(9)おはなし会の実施	順調	
	(10)一日図書館員	順調	拡充
	(11)小学生・中学生向け館内イベントの開催	順調	拡充（年代別記載）
	(12)学校への出張事業	順調	継続・新規含む
	(13)本の紹介・推薦	順調	拡充（他事業整理）
	(14)児童・生徒自身による読み聞かせ	順調	拡充（他事業整理）
	(15)朝読書の充実	順調	継続（年代別記載）
	(16)読書週間・旬間・月間の設定	順調	継続（他事業整理）
	(17)特別支援学級への図書の配置	順調	拡充
	(18)職場体験	順調	拡充
	(19)書評座談会	順調	継続
3 家庭・地域・学校との連携による取組	(1)ボランティアを活用した読み聞かせ	順調	拡充
	(2)図書館ボランティアの育成・活用	順調	拡充
	(3)家読の取組	順調	継続（他事業整理）
	(4)区内大学との連携事業	順調	拡充
	(5)集団保育における図書館利用	順調	拡充（記載変更）
	(6)図書館を活用した読書活動	順調	継続（他事業整理）
	(7)絵本づくりの推進	順調	継続（記載変更）
	(8)学校図書館間の連携	順調	拡充（他事業整理）
	(9)絵本館学校向け貸出セットの充実	順調	拡充（他事業整理）
	(10)学校図書館連携強化	順調	拡充
	(11)ＩＣＴを活用した新しい読書の提案	順調	拡充・新規含む
	(12)ＰＴＡや図書館ボランティアによる読み聞かせ	順調	拡充（他事業整理）
4 読書活動から得られる学力向上	(1)ボローニャ・ブックフェアｉｎいたばし	順調	継続
	(2)いたばし国際絵本翻訳大賞(中学生の部)の実施	順調	継続
	(3)絵本館ＰＲイベント	順調	拡充（他事業整理）
	(4)読書感想文コンクール	順調	継続
	(5)図書館を使った調べる学習コンクール	順調	継続
	(6)文化・郷土を学ぶ館内イベント	順調	拡充（他事業整理）

（５）成果指標

第２期の計画では、平成 28 年度実施の調査時から、令和２年度には不読率（１か月に１冊も本を読まなかった率）を３割減とすることをめざしました。

１　目標値

対　象	平成 28 年度調査結果	令和２年度目標値
小学生	6.5%	4.6%
中学生	10.5%	7.4%

２　不読率の推移（国・都・区－小中別）

小学生	全国	東京都（隔年）	板橋区
平成 28 年度	4～6 年　4.0%		4～6 年　8.7% 全体　**6.5%**
平成 29 年度	4～6 年　5.6%	2 年　3.3% 5 年　3.7%	2 年　2.9% 5 年　8.3% 4～6 年　9.1% 全体　**6.2%**
平成 30 年度	4～6 年　8.1%		4～6 年　13.6% 全体　**9.6%**
令和元年度	4～6 年　6.8%	2 年　2.9% 5 年　4.2%	2 年　4.3% 5 年　9.4% 4～6 年　10.1% 全体　**7.7%**
令和２年度			4～6 年　13.8% 全体　**10.1%**

中学生	全国	東京都（隔年）	板橋区
平成 28 年度	15.4%		**10.5%**
平成 29 年度	15.0%	11.1%	**9.5%**
平成 30 年度	15.3%		**9.9%**
令和元年度	12.5%	9.9%	**7.3%**
令和２年度			**12.2%**

３　国の動向

国の第四次計画では、「子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであり、社会全体で積極的にそのための環境を推進していくことは極めて重要」としています。

文部科学省の調査研究では、中学生までの読書習慣の形成が不十分であることから、高校生になり読書の関心度合いが低下し、スマートフォンの普及等により子どもの読書環境が影響を受けていると分析しています。そして、この分析から第四次計画の主な方策として次の二つをポイントとしています。

（１）発達段階に応じた取組により、読書習慣を形成する。
（２）友人同士で行う活動を通じ、読書への関心を高める。

さらに、学校図書館や地域図書館に関連の深いものとして次のものを挙げています。

（学校図書館）
・学習指導要領を踏まえた読書活動の推進
・学校図書館の整備・充実

（地域図書館）
・図書館資料、施設等の整備・充実
・図書館における子どもや保護者を対象とした読み聞かせ等の企画・実施
・学校図書館との連携・協力

また、「成長段階に応じた取組として、乳幼児、児童、生徒の一人ひとりの発達や読書経験に留意し、家庭、地域、学校において取組が進められることが重要であり、学校種間の接続期において生活の変化等により、子どもが読書から遠ざかることに留意し、学校種間の連携による切れ目のない取組が行われることが重要である」としています。

さらに、家庭における取組としては、「最も身近な存在の保護者が率先して、子どもの読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすことが求められているため、家庭での読み聞かせや一緒に本を読むこと、図書館に出向く等の子どもが読書に親しむきっかけを作ることが重要」としています。

これらの考えを踏まえて、本区における具体的な取組を進めていきます。

４　東京都の動向

東京都では、平成 15 年３月に「東京都子ども読書活動推進計画」（平成 15 年度～平成 19 年度）を第一次計画として策定し、平成 27 年２月に「第三次東京都子供読書活動推進計画」（平成 27 年度～令和元年度）を策定しています。

第三次計画では、成長段階に応じた取組として、「乳幼児期の読み聞かせ」、「異年齢交流による読み聞かせ」、「図書館での定期的なおはなし会の実施」、「家庭での読み聞かせ」、「保育園・幼稚園・児童館等での読書活動と図書館との連携」、「朝読書や各教科等における読書活動の工夫」、「学校図書館の充実」、「各学級における取組」等を挙げています。

特に、学校図書館は、児童・生徒が読書を楽しめる「読書センター」としての機能、情報の収集・活用・発信を行う「情報センター」としての機能、主体的な学習や学習発表を行う「学習センター」としての機能を有していることから、「学校図書館は、可能な限り児童・生徒や教職員が最大限自由に利活用できるよう、登校時から下校時までの開館に努めることが重要」としています。

また、子どもの読書活動を推進していくうえで、「学校が家庭・地域と連携して地域ぐるみで子どもの読書活動を推進することが重要」としています。公共図書館や保護者、ボランティアと連携し、本の配置や館内のレイアウトを工夫し、それぞれの学校の特徴を生かした図書館にしていくことが期待されています。児童・生徒が本を身近なものと感じられるよう、学級文庫の充実にも配慮することが望まれています。各学級における取組では、「教員による本の紹介」、「ブックトークの実施」、「読み聞かせ」等、様々な工夫により、子どもが本に触れ、読書の楽しさを実感する機会を作ることを大切なこととしています。

さらに、必要な知識を得るための本の選び方や調べ方を学ばせることや、「読書ノート」、「読書会」、「児童・生徒によるおすすめ本の紹介」により、読んだ本について話し合う機会や本から得た知識を基に発表する機会を作る取組も期待されています。これらの考えを踏まえて、本区における具体的な取組を進めていきます。

第２章

基本方針

１　計画の目標

２　基本方針

３　計画の期間

４　計画の位置付け

５　重点施策

６　進行管理

第２章　基本方針

１　計画の目標

先行き不透明な予測困難な時代の中で、加速度的に進展する高度情報化への対応や新学習指導要領の着実な実施に向けて、読書の果たす役割を念頭に置きながら、読書活動計画目標を次のとおりとします。

『様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるよう、板橋区の子どもたちの持つ資質・能力を育成するために、読書活動を通じた読み解く力、他者への思いやりと人間関係を築く力を育てる』ことします。

２　基本方針

（１）子どもの読書のための環境の整備・充実

乳幼児期のできるだけ早い段階から、絵本をはじめとした本にふれあう機会を、周囲の大人がどれだけ多く与えられるかが重要と言えます。小学生は、６年間の長い学校生活の中で、学校図書館をどれだけ身近な場所として活用し、読書の習慣付けができるかが重要となります。中学生は、学校図書館と多様なメディアを生かして、様々な疑問を調べることで解決する能力が養われることが重要で、いずれも新しい時代に対応した読書環境が必要となります。

区立図書館 11 館の積極的なアプローチと情報発信により、児童館、保育所、幼稚園、小学校、中学校、学校図書館等、１日の大半を過ごす関連施設との一体的な取組により、子どもの読書環境の整備・充実をめざしていきます。

（２）子どもの年齢・発達の段階に応じた取組

乳幼児期のできるだけ早い段階から多くの絵本に出会うことは、子どもたちが成長するうえでの貴重な経験となります。特に「読み聞かせ」は直接心や脳に響き、情緒を豊かにすると言われています。子どもが興味を持つ、子どもの年齢にあった本や、長年にわたり読み継がれてきた不朽の名作を、身近な人からの「読み聞かせ」を通して知り得ることが最も大切です。身近な人に読んでもらうことで、一層の喜びや楽しさを感じます。特に、親子のコミュニケーションを深めながら、読んでもらうことを楽しめた子どもは、自分から読むことを自然に身に付けるため、子どもたちが本から離れていくことはないと考えます。

子どもたちに与える影響や子どもたちの持つ適応力を見極めながら、子どもの年齢・発達の段階に応じた効果的な取組を進めていくよう、理解・啓発に努めます。

（３）家庭・地域・学校との協力、連携による取組

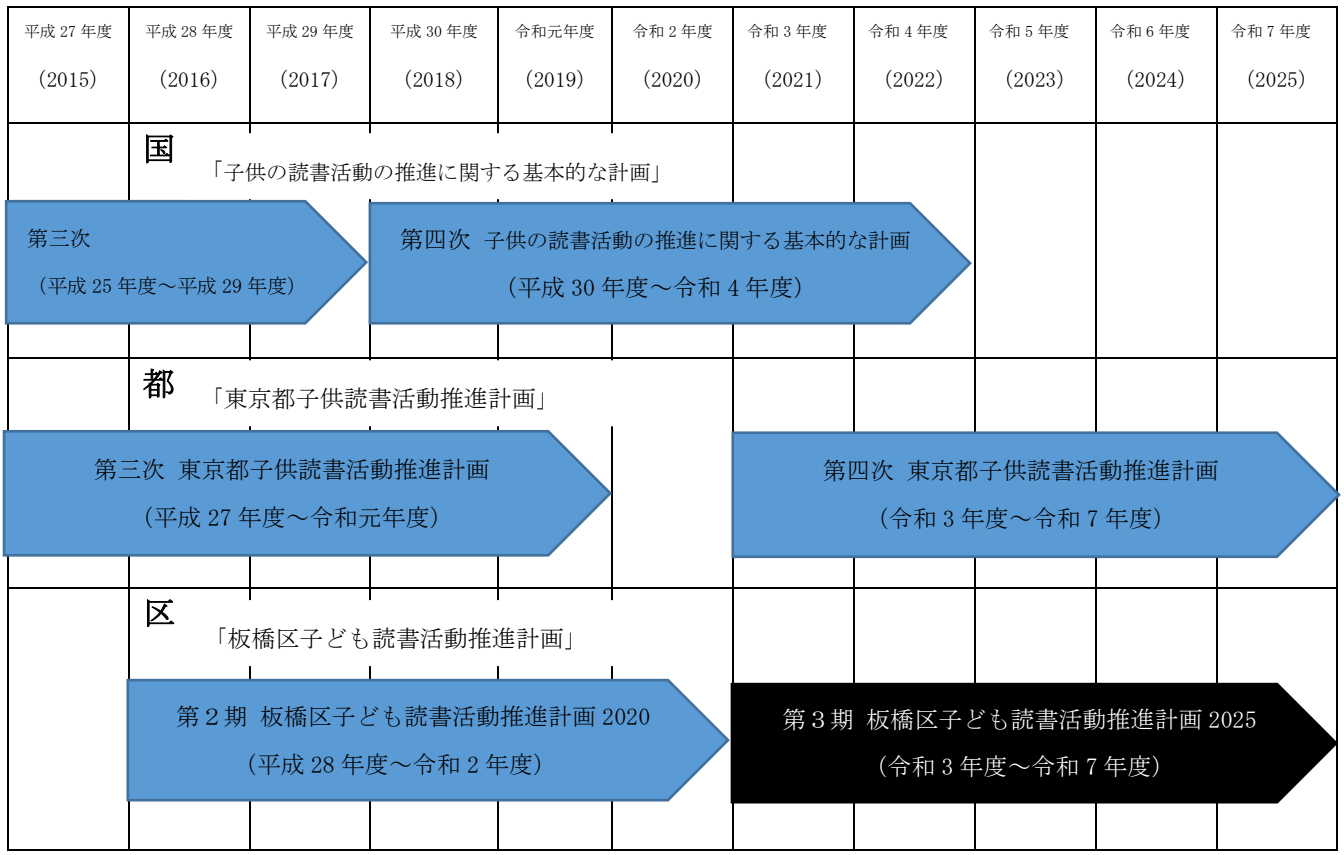
成長段階、発達段階に応じた読書環境の整備は、インターネットやゲームなど多様化するメディアや、それぞれの生活環境によって大きな影響を受けます。その中で、日常的に様々な本との出会いを実現するためには、家庭や地域の大人をはじめ、社会全体で読書の普及に努めることが大切です。

学校教育においても、社会に開かれた教育課程の実現として、学校図書館を活用した読書習慣の形成と探究的な学習の実現に取り組むことが重要です。

区立図書館での取組はもちろんのこと、教育委員会をはじめとする行政機関が家庭・地域・学校と連携して積極的に取り組んでいきます。

３　計画の期間

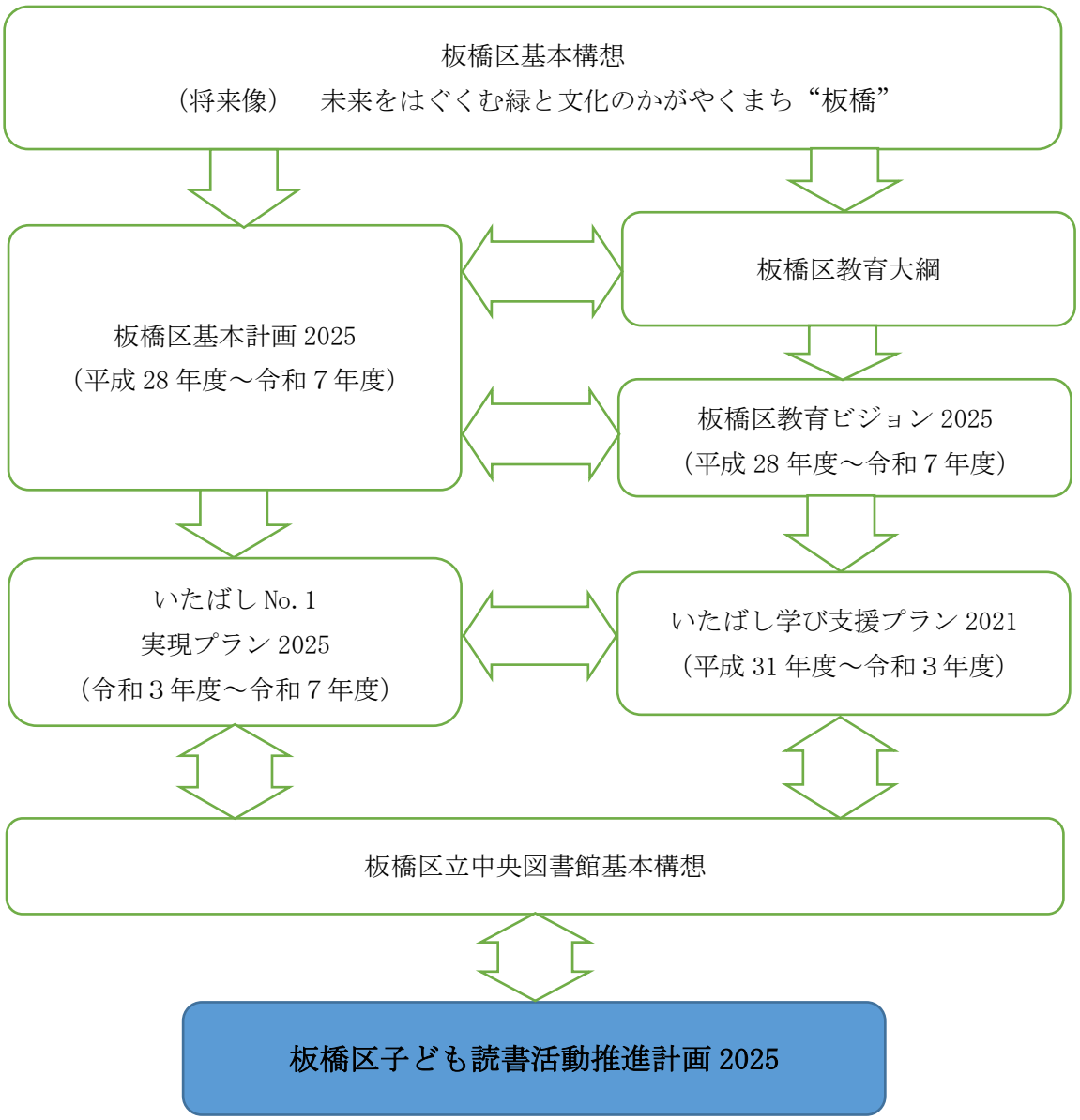
第１期計画から計画期間を５年間として策定し、平成 28（2016）年度から令和２（2020）年度までの５年間を第２期計画として策定しています。本計画においても、令和３（2021）年度から令和７（2025）年度までの５年間を計画期間とします。



４　計画の位置づけ

板橋区では「板橋区基本構想」において、区の将来像を「未来をはぐくむ緑と文化のかがやくまち“板橋”」としてその実現をめざし、教育委員会では「板橋区教育ビジョン 2025」、「いたばし学び支援プラン 2021」を策定し、取組を進めています。

「板橋区子ども読書活動推進計画 2025」は、「いたばし学び支援プラン 2021」の下位計画として、板橋区における子どもの読書活動推進に向けた施策の方向性と取組を計画するものとしています。



５　重点施策

子どもの読書活動を推進するうえで特に重視すべきは、①乳幼児期のできるだけ早い段階から、読書に親しむ環境をつくること、②本を読むことを楽しみながら読書を習慣化させること、③教育委員会をはじめとする行政機関が家庭、地域、学校と連携して取組むこと、この３点に重点を置き、読書活動を推進していきます。

令和３年３月開館の新中央図書館は、いたばしボローニャ絵本館を併設し、区がめざす板橋ブランドでもある「絵本のまち板橋」の発信拠点となり、区立図書館全館で事業を展開します。これを機に、絵本を生かした取組を重点施策として位置づけます。

「絵本のまち板橋」では次の３つのビジョンに沿った施策を、子どもの読書活動の推進につなげます。第３章では、具体的取組を掲載（☆印は重点施策に基づく事業）しています。本を楽しむとともに本を読むことが習慣となるよう、幅広い世代からの協力と理解を得ながら進めていきます。

絵本のまち板橋
～３つのビジョン～

つくる

絵本との出会いの場をつくる

子どもたちが絵本を身近に手にする出会いの場やきっかけを作る取組を展開します。

家庭における読み聞かせが充実するよう、子どもの年齢に応じた本の提供を積極的に行い、早期からの本との触れ合いを広げていきます。

つなぐ

絵本で親子のコミュニケーションを深め、家庭の輪をつなぐ

新たな生活様式や働き方の多様化、個々の多様性が広がる中で、親子のつながりも変化しています。絵本を通した親子での会話やコミュニケーションが深まるよう、絵本が身近にあるもの、家庭の輪をつなぐものとします。

つたえる

絵本文化を築き、人から人へ伝える

家庭・地域・学校と図書館が一体的に行う取組により、子どもから大人まで、あらゆる世代の交流を活発にし、人から人へ絵本の良さを伝えていくものとします。

６　進行管理

第３期計画における取組事業（35 ページ～56 ページ）も引き続き、５年間の年次計画を設定して進行管理を行います。また、新規事業は表１のとおりです。

毎年度、各主管課に対し、事業の実施結果、評価及び実施計画を調査し、進行状況を把握しながら、その成果を検証していきます。

第３期計画の具体的取組（年次計画）で使用する言葉の定義は以下のとおりです。

現状の状況

１　なし（令和２年度現在実施していないもの）
２　検討（令和２年度中に検討を始めたもの）
３　配布・購入・作成・発行・周知（令和２年度現在実施している具体的内容）
４　実施（令和２年度現在実施しているもの）
５　数値で記載（令和２年度現在実施しており、数値目標化できるもの）

各年次（令和３年度から令和７年度）計画（64 事業）

１　検討（新たに計画に位置づけて検討していくもの）
２　企画・準備（新たに計画に位置づけて実施していくもの）
３　実施（今期計画期間から実施していくもの）
４　拡充（引き続き計画に位置づけて、今後の取組を拡大・充実していくもの）
５　継続（引き続き計画に位置づけて、定着化していくもの）
６　数値で記載（令和２年度現在実施しており、数値目標化できるもの）

表１　第３期計画新規事業

新規取組	ページ	取組の対象
1　ブックスタート（絵本）の有効活用	37	乳幼児
14　子ども司書制度の創設	41	小学生
15　読書通帳活用に向けた表彰制度の創設		
40　学習スペースの提供	49	中高生世代
41　ティーンズの居場所づくり		
46　デイジー資料の貸出及び資料の充実	51	特別な支援を必要とする子どもたち
51　多言語資料の有効活用	52	
52　誰もが暮らしやすいダイバーシティ社会の推進		
53　ＧＩＧＡスクール構想によるＩＣＴの活用	53	家庭・地域・学校との協力、連携
54　商店街とのコラボレーションによるイベント実施		
55　図書館サポーターによる図書館運営		
56　本を活用した質の高い教育の持続		

第３章

具体的な取組

１　子どもの年齢・発達の段階に応じた取組

２　家庭・地域・学校との協力、連携による取組

板橋区子ども読書活動推進計画 2025 アクションプラン

アクションプラン（場所）

「絵本のまち板橋」　絵本がつなぐ読書活動

子どもにとっての「本との出会い」は家庭から始まります。
家庭を出発点として、どこにいても絵本にふれあえるまち「絵本のまち板橋」をつくり、子どもたちの豊かな感性や情緒を育てます。

学校

18・30 ブックコーナーの充実（拡充）
21・32 朝読書の充実（継続）
22・33 学校図書館の授業活用（拡充）
23・34 学校図書館の資料充実（拡充）
39　書評座談会（継続）
48　特別支援学級の図書の充実（拡充）
49　図書館サポーターを活用した読み聞かせ（拡充）

家庭

2 ブックスタート（絵本）の配布（継続）
57 家庭読書（うちどく）の日の定着（継続）

図書館

5 乳幼児向け蔵書の充実（拡充）
19 小学生向け蔵書の充実（拡充）
20 おすすめ本の紹介（継続）
40 学習スペースの提供（新規）
41 ティーンズの居場所づくり（新規）
42 ティーンズ向け蔵書の充実（拡充）
46 デイジー資料の貸出及び資料の充実（新規）
47 バリアフリー資料の提供（拡充）
50 わかりやすい案内表示・読書の補助具の提供（拡充）
52 誰もが暮らしやすいダイバーシティ社会の推進（新規）
64 図書館ホームページの充実・ＳＮＳの活用（継続）

地域

4 各施設の読書コーナー充実（拡充）
6 各施設の図書館利用促進（拡充）
13 小さな絵本館の設置（拡充）
54 商店街とのコラボレーションによるイベント実施（新規）
63 ボローニャ・ブックフェア in いたばし（継続）

学校・図書館

15　読書通帳活用に向けた表彰制度の創設（新規）
16・28 読み聞かせ、おはなし会、音読の実施（拡充）
24　一日図書館員（拡充）
26・36 読書感想文コンクール（継続）
53　GIGA スクール構想による ICT の活用（新規）
58　学校への団体貸出の充実（拡充）
59　図書館見学・職場体験の実施（拡充）
60　学校図書館連携強化（拡充）
61　学校図書委員と図書館との交流（拡充）
62　読書通帳の活用（継続）

学校・地域

14　子ども司書制度の創設（新規）
25・35 図書館を使った調べる学習コンクール（継続）
38　いたばし国際絵本翻訳大賞（継続）
55　図書館サポーターによる図書館運営（新規）
56　本を活用した質の高い教育の持続（新規）

家庭・図書館

3 読み聞かせ・おはなし会・音読の実施（継続）
7 親子読み聞かせ講座（拡充）
8 乳幼児向け館内イベントの実施（拡充）
9 かるがもタイムの充実（継続）
10 おやこのどくしょきろくの配布（継続）
11 よんで！よんで！の発行（継続）
17 小学生向け館内イベントの実施（拡充）
29 中学生向け館内イベントの実施（拡充）
31 ティーンズコーナーの充実（拡充）
43 ティーンズ向け館内イベントの実施（拡充）
44 ティーンズコーナー展示（拡充）
45 おすすめ本リストの作成（拡充）

家庭・地域

1　ブックスタート（絵本）の有効活用（新規）
12　二次利用資料の提供（継続）
27・37 絵本づくりワークショップ（継続）
51　多言語資料の有効活用（新規）

アクションプラン（年齢）

「絵本のまち板橋」　絵本がつなぐ読書活動

子どもにとっての「本との出会い」は家庭から始まります。
家庭を出発点として、どこにいても絵本にふれあえるまち「絵本のまち板橋」をつくり、子どもたちの豊かな感性や情緒を育てます。

子どもの読書のための環境の整備・充実

中学生
- 図書館ホームページの充実・ＳＮＳの活用
- 学校への団体貸出の充実
- 図書館サポーターによる図書館運営
- 商店街とのコラボレーションによるイベント実施
- ＧＩＧＡスクール構想によるＩＣＴの活用
- 誰もが暮らしやすいダイバーシティの社会の推進
- 多言語資料の有効活用
- わかりやすい案内表示・読書の補助具の提供
- 特別支援学級の図書の充実
- バリアフリー資料の提供
- デイジー資料の貸出及び資料の充実
- ティーンズ向け蔵書の充実
- ティーンズの居場所づくり
- 学習スペースの提供
- 学校図書館の資料充実
- ブックコーナーの充実
- 読み聞かせ・おはなし会・音読の実施

小学生
- おすすめ本の紹介
- 小学生向け蔵書の充実

乳幼児
- 乳幼児向け蔵書の充実
- 各施設の読書コーナー充実
- ブックスタート（絵本）の有効活用

子どもの年齢・発達の段階に応じた取組

中学生
- 書評座談会
- 図書館見学・職場体験の実施
- おすすめ本リストの作成
- ティーンズコーナー展示
- ティーンズ向け館内イベントの実施
- ティーンズコーナーの充実
- 一日図書館員
- 朝読書の充実
- 読書通帳活用に向けた表彰制度の創設
- 子ども司書制度の創設
- 中学生向け館内イベントの実施

小学生
- 小学生向け館内イベントの実施
- 読み聞かせ・おはなし会・音読の実施

乳幼児
- よんで！よんで！の発行
- おやこのどくしょきろくの配布
- かるがもタイムの充実
- 乳幼児向け館内イベントの実施
- 親子読み聞かせ講座
- ブックスタート（絵本）の配布

家庭・地域・学校との連携による取組

中学生
- ボローニャ・ブックフェアinいたばし
- 読書通帳の活用
- 学校図書委員と図書館との交流
- 学校図書館連携強化
- 家庭読書（うちどく）の日の定着
- 本を活用した質の高い教育の持続
- 図書館サポーターを活用した読み聞かせ
- いたばし国際絵本翻訳大賞
- 絵本づくりワークショップ
- 読書感想文コンクール
- 図書館を使った調べる学習コンクール
- 学校図書館の授業活用
- 小さな絵本館の設置
- 二次利用資料の提供

小学生
- 各施設の図書館利用促進

家庭・地域・児童館・保育所・幼稚園・小学校・中学校・学校図書館・区立図書館

第３章　具体的な取組

本計画の基本方針を踏まえて、「子どもの読書のための環境の整備・充実」の視点を整理し、「１　子どもの年齢・発達の段階に応じた取組」及び「２　家庭・地域・学校との協力、連携による取組」を具体的な取組内容とします。

また、ＳＤＧｓを具体的な取組の体系に沿って整理することで、組織横断的な施策展開を導き、事業に取り組んでいくこととします。

ＳＤＧｓは、2015 年９月に国連において採択された、17 のゴールと 169 のターゲットからなる持続可能な開発目標です

本計画では、連携している取組に応じて次のＳＤＧｓのアイコンを付しています。

ゴール３
あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。

ゴール４
全ての人に包括的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。

ゴール５
ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び少女の能力強化を行う。

ゴール 10
各国内及び各国間の不平等を是正する。

ゴール 16
持続可能な開発のための平和で包括的な社会を促進し、全ての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。

ゴール 17
持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。

１　子どもの年齢・発達の段階に応じた取組

本計画策定において、第三期検討委員会では、「第二期計画の取組状況」、「小・中学校における不読率の推移」、「図書館における事業の実施状況」、「児童館・保育所・幼稚園での読書活動状況」、「保護者を対象にした読書についてのアンケート結果」などを議題にして検討してきました。

子どもの成長過程における早い段階から、「読み聞かせ」や「音読」を始めることは、大人にも子どもにも大変良いことであり、できる限り中学生になる頃まで「読み聞かせ」に慣れ親しませ、楽しませることが大切である、という考え方を基にして共通理解を図りました。

その他にも、「小・中学校における学校図書館の利用状況」、「朝読書の実施状況」について情報交換し、さらには、「学校図書館と公共図書館の連携」、「調べ学習に対する取組」、「学校への団体貸出」など、各実施状況について共有してきました。

検討を進めていく中で、「読書で得られる楽しさ」を伝えることが大切な視点であること、「読んだ冊数」の多さだけで評価するのではなく、「心に残る１冊の本」に出会えることが「読書の醍醐味」であること、子どもたちは自分の興味のあることには、飽くなき探究心があるので、その原動力が本と結びつくよう、読書環境を整備することが大事であることを共有しました。

また、今後の図書館運営については、次のことを視野に入れた取組も必要であると共有しました。

・デジタル化の進展を見据えた電子書籍の利活用
・学習漫画やライトノベルの所蔵を充実
・多言語世帯に対応した資料の充実
・ティーンズ世代の魅力ある居場所作りへの取組　など

これらの取組と、第二期計画の基本的方針を踏襲し、「子どもの年齢・発達の段階に応じた取組」により、個別の事業を展開していきます。

（１）乳幼児を対象とした取組

乳幼児期には、親や周囲の大人が話しかける様々な言葉や表情が、子どもの心や脳に響き、豊かな感情の成長が見られるようになります。また、身体の成長とともに活動的になり、遊びなどの体験が増えていくことで感性が豊かになります。

絵本による読み聞かせは、子どもが本を楽しむことを知る、とても大切なスタートラインとなるものです。親子でのコミュニケーションを楽しみながら、遊びの要素を取り入れた「読み聞かせ」が広く定着するよう、次の事業に取り組んでいきます。

13 事業

取　　組	１　ブックスタート（絵本）の有効活用　☆					【新規】
目　　的	ブックスタート事業の普及・ＰＲに努める。				中央図書館	
内　　容	区立図書館で配布しているブックスタート絵本を、区内施設に配布するなどして、絵本を手にする機会を拡大します。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	なし	配布	継続	継続	継続	継続

取　　組	２　ブックスタート（絵本）の配布　☆					【継続】
目　　的	早い段階から家庭での読み聞かせにつなげる。				中央図書館	
内　　容	子どもが１歳になるまでに母子手帳を区立図書館に持参すると、絵本２冊と読み聞かせのアドバイス冊子の入ったバッグをプレゼントします。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	配布	継続	継続	継続	継続	継続

取　　組	３　読み聞かせ・おはなし会・音読の実施　☆					【継続】
目　　的	各施設での取組を広げる。				子ども政策課・保育サービス課・学務課	
内　　容	区立児童館、区立保育園、幼稚園で、職員や図書館サポーターなどによる「読み聞かせ」や「おはなし会」などを実施します。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	継続	継続	継続	継続	継続

取　　組	4　各施設の読書コーナー充実　☆					【拡充】
目　　的	資料を充実させて家庭読書につなげる。				子ども政策課・ 保育サービス課・学務課	
内　　容	区立児童館（絵本のひろば）、区立保育園（親子ふれｉブックコーナー）、幼稚園の各施設で絵本などを毎年購入し、資料の充実を図ります。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	購入	継続	継続	継続	継続	継続

取　　組	5　乳幼児向け蔵書の充実　☆					【拡充】
目　　的	年齢に応じた資料を充実する。				中央図書館	
内　　容	乳児向け、幼児向けの年齢に応じた絵本の蔵書を充実させます。また、テーマ展示や企画展示などを通して、絵本の紹介を積極的に行います。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	拡充	拡充	拡充	充実	充実

取　　組	6　各施設の図書館利用促進					【拡充】
目　　的	図書館への来館機会を増やす。				保育サービス課・学務課	
内　　容	区立保育園、幼稚園のお散歩コースで、図書館に来館した乳幼児に絵本を紹介するなど、図書館利用を促進します。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	継続	継続	継続	継続	継続

取　　組	7　親子読み聞かせ講座　☆					【拡充】
目　　的	家庭での読み聞かせを広げる。				中央図書館	
内　　容	乳幼児の親子を対象に、遊びの要素を入れた読み聞かせの実践と絵本の紹介を行い、家庭での読み聞かせの輪を広げます。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	９館	10 館	全 11 館	全 11 館	全 11 館	全 11 館

取　　組	8　乳幼児向け館内イベントの実施					【拡充】
目　　的	図書館利用、読書活動を推進する。				中央図書館	
内　　容	季節の行事（七夕・クリスマス）、かるがもタイム、赤ちゃんおはなし会、手遊び、わらべうたなど、様々なイベントを実施します。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充

取　　組	9　かるがもタイムの充実					【継続】
目　　的	乳幼児と保護者の利用推進につなげる。				中央図書館	
内　　容	周囲に気兼ねなく安心してご利用いただけるよう、乳幼児を連れた親子の優先時間帯を設け、時間帯にあわせたイベントを実施します。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	継続	継続	継続	継続	継続

取　　組	10　おやこのどくしょきろくの配布					【継続】
目　　的	読み聞かせのきっかけ作りにする。				中央図書館	
内　　容	おすすめの本の紹介と、妊娠中に読んだ本や赤ちゃんに読み聞かせした本を記入できる通帳を配布します。子どもへのメッセージも書けて、大きくなった時のプレゼントとしても使えます。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	配布	継続	継続	継続	継続	継続

取　　組	11　よんで！よんで！の発行　☆					【継続】
目　　的	年齢に応じた不朽の名作品を後世に伝える。				中央図書館	
内　　容	０～２歳に読んであげたい絵本のリスト、３～５歳に読んであげたい絵本のリストの２種類を作成し、年齢にあわせたおすすめの絵本を紹介します。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	発行	継続	継続	継続	継続	継続

取　　組	12　二次利用資料の提供					【継続】
目　　的	不要となった図書館資料を有効活用する。				中央図書館	
内　　容	図書館で不要となった絵本などの有効活用を目的に、区立児童館、区立保育園、近隣の幼稚園など、関連施設に無償で提供します。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	継続	継続	継続	継続	継続

取　　組	13　小さな絵本館の設置　☆					【拡充】
目　　的	絵本のまち板橋を展開する。				中央図書館	
内　　容	区内の施設や店舗に、絵本を置き、買い物ついでや待ち時間などに絵本を楽しめるスポット（小さな絵本館）を設置します。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	９か所	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充

親子読み聞かせ講座（中央図書館）

ブックスタート（絵本）

おやこのどくしょきろく

（２）小学生を対象とした取組

小学生は、学年が上がるにつれて、読書に対して感覚的な反応から論理的に物事を把握しようとする反応へと変化していきます。自分一人で作品を選んで「読む」ことができるようになるまで、良い作品との出会いを周囲の大人からの「読み聞かせ」により積み重ねることで、耳から聞く楽しさ、作品の味わいの良さを感じることができるようになります。

低学年は、情操環境を育てながら、親との関係や友だちとのコミュニケーションを図り、「聞く」こと、「見る」ことの楽しさを感じるようになります。また、作品を一緒に読む「音読」や「群読」のような体験が充実するので、楽しみながら多くの言葉を覚えるようになります。

中学年になると、自分の力で考える能力や、周囲とのコミュニケーションから社会性が身につくため、本の世界を「理解」し、自分なりの「イメージ」や「想像力」が膨らむので、作品を通した様々な疑似体験を楽しめるようになります。また、友だちや家族と本を話題にした会話を楽しむことができるようになり、読書の幅も広がります。

高学年になると知識が更に深まり、客観的な認識力が高まります。低学年では作品の理解がまだ難しい物語の本を「読む」ことや、新聞や雑誌など多様なメディアから自分の興味を持ったことを調べる、「知る」ことの楽しさを実感するようになります。また、自分で作品を「選ぶ」楽しみや、作品に「共感」することを覚えて、毎日の生活を実り多きものにする感受性豊かな心の成長につながります。

学年が上がるにつれて、読書の楽しみ方は変化していきますが、小学校の全児童を対象とした、「読み聞かせ」や図書館が行うイベントを中心に、各種事業に取り組んでいきます。

14 事業

取　　組	14　子ども司書制度の創設　☆					【新規】
目　　的	子どもの資格制度による読書活動を推進する。				中央図書館	
内　　容	絵本、物語の知識や図書館の活動に関する学習会などを企画し、読書意欲を高める資格制度の創設を検討します。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	なし	検討	企画準備	実施	継続	継続

取　　組	15　読書通帳活用に向けた表彰制度の創設					【新規】
目　　的	通帳の活用の更なる普及、定着に努める。				中央図書館	
内　　容	小学生、中学生に配付、定着している読書通帳の充実した活用をめざし、読書経験を評価する表彰制度の創設を検討します。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	なし	企画準備	実施	継続	継続	継続

取　　組	16　読み聞かせ・おはなし会・音読の実施　☆					【拡充】
目　　的	地域における読書活動を推進する。				中央図書館・小学校	
内　　容	区立図書館では、毎週「おはなし会」を実施し、絵本の読み聞かせや紙芝居、ストーリーテリング、英語おはなし会などを行います。また、ホームページでの「音読」の動画配信や「音読の講座」を実施します。 小学校では、学校の授業や担任による「読み聞かせ」、あいキッズ事業での「読み聞かせ」や「おはなし会」を実施します。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充

取　　組	17　小学生向け館内イベントの実施					【拡充】
目　　的	図書館利用、読書活動を推進する。				中央図書館	
内　　容	ブックトーク、アニマシオン、エプロンシアター、パネルシアター、工作、スタンプラリー、季節のおはなし会など、館内で小学生を対象にした各種イベントを実施します。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充

取　　組	18　ブックコーナーの充実					【拡充】
目　　的	学校内の読書環境を充実する。				学務課・小学校	
内　　容	区立小学校に設置されている「学校図書館」の資料を購入するほか、教室に「学級文庫」を設置するなど、資料の充実を図ります。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充

取　　組	19　小学生向け蔵書の充実					【拡充】
目　　的	年齢に応じた資料を充実する。				中央図書館	
内　　容	低学年・中学年・高学年向けの図書をバランスよく購入します。小学生向けのおすすめ本・テーマ本・特集本の展示をはじめ、表紙の面だし、ＰＯＰ、本のおびにより、探しやすい、わかりやすい紹介をします。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	購入	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充

取　　組	20　おすすめ本の紹介					【継続】
目　　的	年齢に応じた作品を紹介する。				中央図書館	
内　　容	小学生向けおすすめ本（低学年・中学年・高学年）リストを作成して紹介するほか、洋書、調べる学習用資料を紹介します。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	継続	継続	継続	継続	継続

取　　組	21　朝読書の充実					【継続】
目　　的	学校での朝読書を継続する。				指導室・小学校	
内　　容	区立小学校全校、全学年、全クラスでの朝読書を継続して実施します。朝読書の支援が必要な場合は、区立図書館から図書館サポーターを派遣します。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	継続	継続	継続	継続	継続

取　　組	22　学校図書館の授業活用					【拡充】
目　　的	学校図書館の授業利用を増やす。				指導室・小学校	
内　　容	学校図書館を授業で活用していくことで、今まで以上に児童の図書館利用につなぐことができます。色々な本を知る、調べる時間を増やして、本を通した身近な居場所となる環境を作ります。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充

取　　組	23　学校図書館の資料充実					【拡充】
目　　的	資料購入を充実し、個別利用を高める。				学務課・小学校	
内　　容	学校図書館長（校長）の経営方針のもと、学校司書の管理・運営による資料の選定・購入に努め、所蔵バランスや需要の高い資料の充実に努めます。本を楽しむ、調べものに活用する、進路の参考にするなど、身近な情報源として活用します。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	購入	継続	継続	継続	継続	継続

取　　組	24　一日図書館員					【拡充】
目　　的	職場体験を通して図書館を知ってもらう。				中央図書館	
内　　容	小学生を対象に、夏休みなどの学校休業日に、一日図書館員を体験してもらい、図書館の魅力や楽しさを知ってもらいます。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	８館	９館	10 館	全 11 館	全 11 館	全 11 館

取　　組	25　図書館を使った調べる学習コンクール					【継続】
目　　的	作品作りの過程で調べる学習を身につける。				中央図書館・小学校	
内　　容	公益財団法人図書館振興財団主催による全国コンクールの地域コンクールの位置づけとして、区立図書館主催により、小学校全校に作品を募集します。各図書館で夏休み期間中に「調べる学習相談会」を実施し、12月に優秀者を表彰します。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	継続	継続	継続	継続	継続

取　　組	26　読書感想文コンクール					【継続】
目　　的	読書意欲を高める。				中央図書館・小学校	
内　　容	小学校で、読書感想文コンクールを実施します。「図書館を使った調べる学習コンクール」とあわせて、12 月に表彰式を実施します。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	継続	継続	継続	継続	継続

取　　組	27　絵本づくりワークショップ　☆					【継続】
目　　的	作品を作る楽しさと本の魅力を伝える。				中央図書館	
内　　容	小学生を対象としたワークショップを、区立図書館で開催します。 絵本の製作を自ら行い、作品を完成させることで、絵を描くことの楽しさ、本を作ることの魅力を体感してもらいます。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	継続	継続	継続	継続	継続

えいごおはなし会（中央図書館）

ハロウィンおはなし会（西台図書館）

小学生向けおすすめ本リスト

本のおび大賞展示（赤塚図書館）

児童コーナー展示（高島平図書館）

調べる学習基本のき（氷川図書館）

小学生向け絵本づくりワークショップ（中央図書館）

（３）中学生を対象とした取組

中学生は、身体の成長や変化が大きく表れ、心の成長も飛躍的に進みます。自分と向き合う様々な作品を通じて、人生や自己実現について深く考え、大人の感覚を身につけていきます。

周囲からの影響を大きく受けるこの年代は、メディアの情報やトレンドなど色々なことに興味を示すため、膨大な情報量に混乱することなく、選択や判断を見誤らない正しい知識を身につけることが必要です。

中学生には、「職場体験」や「ビブリオバトル」等の体験型イベントを中心にした、次の事業に取り組んでいきます。

12 事業

取　　組	28　読み聞かせ・おはなし会・音読の実施　☆					【拡充】
目　　的	地域における読書活動を推進する。				中央図書館	
内　　容	学校からの要請により、図書館スタッフや図書館サポーターを派遣して、「ストーリーテリング」、「英語おはなし会」などを実施します。 また、区立図書館では、ホームページでの「音読」の動画配信や「音読の講座」を実施します。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充

取　　組	29　中学生向け館内イベントの実施					【拡充】
目　　的	図書館利用、読書活動を推進する。				中央図書館	
内　　容	ブックトーク、ビブリオバトル、書評座談会、本のおび大賞など、館内で中学生を対象にした各種イベントを実施します。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充

取　　組	30　ブックコーナーの充実					【拡充】
目　　的	学校内の読書環境を充実する。				学務課・中学校	
内　　容	区立中学校に設置されている「学校図書館」の資料を購入するほか、教室に「学級文庫」を設置し、資料の充実を図ります。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充

取　　組	31　ティーンズコーナーの充実					【拡充】
目　　的	ティーンズの居場所を魅力あるものにする。				中央図書館	
内　　容	区立図書館のティーンズコーナーに「ライトノベル」や新聞、雑誌などの多様なメディア資料や、中学生向けおすすめ本・テーマ本の展示を充実させます。ティーンズ自ら作成する「ＰＯＰ」や「本のおび」を図書館に展示したり、図書館スタッフとコーナーの装飾を製作するなど、ティーンズ自ら居場所を手掛ける体験を提供します。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	継続	継続	継続	継続	継続

取　　組	32　朝読書の充実					【継続】
目　　的	学校での朝読書を継続する。				中学校	
内　　容	区立中学校全校、全学年、全クラスでの朝読書を継続して実施します。朝読書の支援が必要な場合は、区立図書館から図書館サポーターを派遣します。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	継続	継続	継続	継続	継続

取　　組	33　学校図書館の授業活用					【拡充】
目　　的	学校図書館の授業利用を増やす。				中学校	
内　　容	学校図書館を授業で活用し、今まで以上に生徒の図書館利用につなげます。様々な本を知ることができるよう、調べる機会を増やし、本が身近なものとなる環境を整えます。また、放課後の学習スペースとして開放するなど、今まで以上に生徒の図書館利用を促進します。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充

取　　組	34　学校図書館の資料充実					【拡充】
目　　的	資料購入を充実し、個別利用を高める。				学務課・中学校	
内　　容	学校図書館長（校長）の経営方針のもと、学校司書の管理・運営による資料の選定・購入に努め、所蔵バランスを考えながら需要の高い資料の充実に努めます。本を楽しむ、知識を習得する、進路の参考にするなど、本を身近な情報源としていきます。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	購入	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充

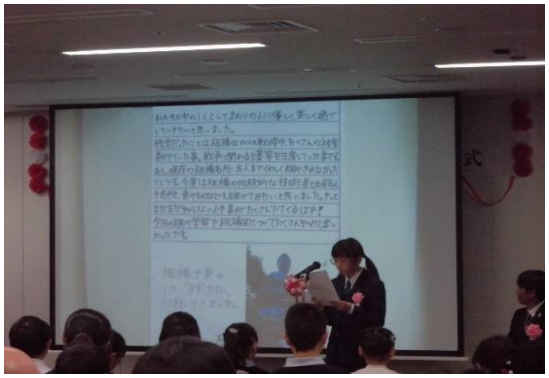
取　　組	35　図書館を使った調べる学習コンクール					【継続】
目　　的	作成の過程で調べる習慣･必要性を身につける。				中央図書館・中学校	
内　　容	公益財団法人図書館振興財団主催による全国コンクールの地域コンクールの位置づけとして、区立図書館主催により、中学校全校に作品を募集します。調べ学習を進めやすくするために、学校や生徒に作品のつくり方のサポートを行い、12 月に優秀者を表彰します。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	継続	継続	継続	継続	継続

取　　組	36　読書感想文コンクール					【継続】
目　　的	読書意欲を高める。				中央図書館・中学校	
内　　容	中学校で、読書感想文コンクールを実施します。「図書館を使った調べる学習コンクール」とあわせて、12 月に表彰式を実施します。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	継続	継続	継続	継続	継続

取　　組	37　絵本づくりワークショップ　☆					【継続】
目　　的	製作体験を通じて絵本の魅力を伝える。				中央図書館	
内　　容	中学生を対象としたワークショップを開催します。区内印刷・製本企業と協力し、本格的な絵本製作を行います。完成した作品は、「いたばし子ども絵本展」で展示するほか、中央図書館でも紹介します。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	継続	継続	継続	継続	継続

取　　組	38　いたばし国際絵本翻訳大賞（中学生部門）　☆					【継続】
目　　的	語学を堪能し英語力を身につける。				中央図書館	
内　　容	国際理解を深め、表現力や英語力を高めることを目的に、中学生部門（英語の翻訳のみ）を設けて実施し、受賞者を表彰します。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	継続	継続	継続	継続	継続

取　　組	39　書評座談会					【継続】
目　　的	学校における読書活動を活発化する。				中学校	
内　　容	中学校（教育研究会国語部）主催で年１回、各中学校の代表生徒が、課題図書に対して書いた読書感想文を基に話し合い、作品への理解を深め交流します。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	継続	継続	継続	継続	継続



「読書感想文コンクール」及び
「図書館を使った調べる学習コンクール」表彰式

中学生向け絵本づくりワークショップ

いたばし国際絵本翻訳大賞

職場体験での展示

YA コーナー（成増図書館）

YA コーナー（成増図書館）

（４）中高生（ティーンズ）世代を対象とした取組

中高生の興味や話題は娯楽が中心となり、映画やドラマ、音楽、ファッションなど、トレンド情報に憧れを持ちます。そのため、友だちや周囲の目を気にした言動が増えていきます。

また、インターネット環境やスマートフォンの普及により、ゲームや動画などを見て過ごす時間が増えている一方、学習塾や習い事の多忙な日々を送る中高生も多くいます。

様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、中高生に必要な情報や有益な情報には、常にアンテナを張る必要があります。また、学習スペースの提供や、友だちと楽しめる居場所作りなど、中高生の感性をキャッチし、工夫を凝らしたアプローチで、次の事業に取り組んでいきます。

６事業

取　　組	40　学習スペースの提供				【新規・拡充】	
目　　的	図書館の利用促進につなげる。				中央図書館	
内　　容	区立図書館の視聴覚室などを利活用して、中高生の勉強会や中高生に限定した専用時間帯を設定するなど、学習利用の環境整備を進めます。また、中央図書館では３階に学習ルームを設置するほか、グループ学習などに使用できるティーンズルームを２階に設置します。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	２館	２館	３館	４館	５館	６館

取　　組	41　ティーンズの居場所づくり				【新規】	
目　　的	図書館内に世代間の交流の場を作る。				中央図書館	
内　　容	児童コーナー、一般図書コーナーとは別に、図書館内にティーンズ専用のフロアやコーナーを設置します。ティーンズが好む資料や情報を集め、世代間の交流や情報交換の場として活用します。中高生の活動発表の場や発信拠点とするほか、ティーンズ自らコーナーづくりを手掛けるワークショップを立ち上げ、図書館スタッフと一緒に進めていきます。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	企画準備	実施	継続	継続	継続	継続

取　　組	42　ティーンズ向け蔵書の充実				【拡充】	
目　　的	年齢別に応じた資料を充実する。				中央図書館	
内　　容	ティーンズ向け雑誌、ライトノベル、学習漫画、スポーツ、音楽など、ティーンズ世代に人気の高いジャンルの資料を充実させ、ティーンズの来館利用率を高めます。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	購入	継続	継続	継続	継続	継続

取　　組	43　ティーンズ向け館内イベントの実施					【拡充】
目　　的	図書館利用、読書活動を推進する。				中央図書館	
内　　容	ビブリオバトルなどの参加型・体験型のイベントを中心に、ティーンズ向け館内イベントを実施します。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充

取　　組	44　ティーンズコーナー展示					【拡充】
目　　的	ものづくりを通して本の魅力を発信する。				中央図書館	
内　　容	中学生が職場体験時に製作したＰＯＰ、ディスプレイ作品、ティーンズを集めたワークショップで製作した作品を展示します。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	継続	継続	継続	継続	継続

取　　組	45　おすすめ本リストの作成					【拡充】
目　　的	年齢に応じた名作品を後世に伝える。				中央図書館	
内　　容	ティーンズにおすすめしたい本のリストを作成します。また、ティーンズの投票によるランキング作品を紹介します。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	作成	継続	継続	継続	継続	継続

ティーンズコーナー（西台図書館）

高校生とのコラボ展示（高島平図書館）

（５）特別な支援を必要とする子どもたちへの取組

読書を励行していくうえでは、様々な障がいに対する配慮が必要とされます。障がいのある子どもたちには、視覚障がい、聴覚障がい、知的障がい、肢体不自由、病弱・身体虚弱、言語障がい、情緒障がい、ＡＳＤ（自閉症スペクトラム障がい）、ＬＤ（学習障がい）、ＡＤＨＤ（注意欠陥多動性障がい）のほか、学習面又は行動面において困難のある子どもで発達障がいの可能性のある人も含まれています。

視覚障がい者には、資料の充実に向けて、令和元年度「サピエ」に登録し、点字及びデイジーデータをダウンロードできるよう整備しました。また、さわる絵本、布絵本、ＬＬブック、大活字本、点字図書、デイジー図書を提供しています。特別な配慮を必要とする子どもたちには、「読み聞かせ」の実施や「学級文庫」を設置するなど、本の充実を図ります。

障がいとは違う視点になりますが、子どもたちの多様化には個人の様々な個性、あらゆる考え方や生き方を尊重する、偏見や誤解のない正しい理解と知識が必要です。ＬＧＢＴやマイノリティー等について学べる機会と資料の提供を充実していきます。また、日本語を母語としない多言語の世帯や子どもたちに対する支援が必要とされています。日本語や日本文化の理解に加えて、異文化理解や多文化共生の考え方が根付くような取組を含めて、次の事業に取り組んでいきます。

７事業

取　　組	46　デイジー資料の貸出及び資料の充実					【新規】
目　　的	障がいに応じたサービスを展開する。				中央図書館	
内　　容	中央図書館では、視覚障がい者等に電子資料（デイジー資料）により図書を提供できる環境を整備しており、資料数の充実に努めます。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	なし	200 作品	300 作品	400 作品	500 作品	600 作品

取　　組	47　バリアフリー資料の提供					【拡充】
目　　的	障がいに応じたサービスを展開する。				中央図書館	
内　　容	障がい者に配慮した資料（さわる絵本、布絵本、ＬＬブック、大活字本、点字図書、デイジー図書）を提供します。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充

取　　組	48　特別支援学級の図書の充実					【拡充】
目　　的	障がいに応じた読書を提供する。				小学校・中学校	
内　　容	いつでも好きな時に本が読める「学級文庫」を設置し、本に興味が持てるような資料の充実を図ります。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充

取　　組	49　図書館サポーターを活用した読み聞かせ					【拡充】
目　　的	読み聞かせの楽しさを伝える。				中央図書館・小学校	
内　　容	区立図書館から図書館サポーターを派遣し、学校司書や教師と連携して、特別支援学級での「読み聞かせ」を実施します。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	継続	継続	継続	継続	継続

取　　組	50　わかりやすい案内表示・読書の補助具の提供					【拡充】
目　　的	読書のバリアフリー化を図る。				中央図書館	
内　　容	区立図書館では、本などを探す目印が容易となる案内表示を行います。また、拡大読書機、リーディングトラッカーなど、必要な補助具の貸出しを行います。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充

取　　組	51　多言語資料の有効利用					【新規】
目　　的	多言語世帯への生活・語学支援を行う。				中央図書館	
内　　容	本と人をつなげる取組として、多言語の世帯にある不要になった外国語絵本や本を、無償交換が行える場の提供を検討します。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	なし	検討	実施	継続	継続	継続

取　　組	52　誰もが暮らしやすいダイバーシティ社会の推進					【新規】
目　　的	偏見を持たない社会への理解を広める。				中央図書館	
内　　容	多様化した社会、ダイバーシティやマイノリティー等、偏見や誤解のない知識と教養が身につく図書資料を充実させます。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	なし	実施	拡充	拡充	拡充	拡充

２　家庭・地域・学校との協力、連携による取組

社会に開かれた教育の実現には、家庭はもとより、地域や社会全体で支える環境が必要です。学校内においては教員や学校司書をはじめ、区立小中学校のＰＴＡや板橋区コミュニティ・スクール（ｉＣＳ）などの地域の活力や、区内企業や大学などの社会資源を生かした大人との関わりを活発化させて、子どもたちの良い刺激や体験となるよう、次の事業に取り組んでいきます。

12 事業

取　　組	53　ＧＩＧＡスクール構想によるＩＣＴの活用					【新規】
目　　的	読書を通したＩＣＴの活用を進めていく。				教育支援センター 指導室・中央図書館	
内　　容	ＧＩＧＡスクール構想の実践に伴う読書環境の変化や調べ学習への応用など、タブレット端末を活用した多様な学びを検討します。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	なし	検討	実施	継続	継続	継続

取　　組	54　商店街とのコラボレーションによるイベント実施					【新規】
目　　的	絵本のまち板橋構想で地域を活性化する。				中央図書館	
内　　容	中央図書館を中心に、地域の商店街と連携した地域の活性化の支援を進め、各種イベントの共催を館外においても実施するなど、検討します。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	なし	企画準備	実施	継続	継続	継続

取　　組	55　図書館サポーターによる図書館運営					【新規】
目　　的	区と区民による新たな協働運営を進める。				中央図書館	
内　　容	図書館サポーターは、読み聞かせを中心に活動してきましたが、図書館運営の企画、立案などの協働運営の参画に活動を拡大し、人材の定着をめざします。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	240 人	250 人	255 人	260 人	265 人	270 人

取　　組	56　本を活用した質の高い教育の持続					【新規】
目　　的	質の高い教育の持続を進める。				中央図書館 小学校・中学校	
内　　容	ＳＤＧｓ の持続可能な社会への意識を深めていく視点から、質の高い教育を広めるため、学校と連携した図書資料の購入を図り、図書の活用を活発にし学力向上につなげます。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	なし	企画準備	実施	継続	継続	継続

取　　組	57　家庭読書（うちどく）の日の定着					【継続】
目　　的	家庭読書の定着化を図る。				中央図書館	
内　　容	毎月 23 日を家庭読書（うちどく）の日としてＰＲ・普及に努めます。家庭で同じ本を読む、本の話題で会話を楽しむなど、家庭読書の楽しみ方を積極的に情報発信して、親子のコミュニケーション力を高めます。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	継続	継続	継続	継続	継続

取　　組	58　学校への団体貸出の充実					【拡充】
目　　的	学校での積極的な図書活用を支援する。				中央図書館	
内　　容	各図書館のエリアにある小・中学校に団体貸出しを行います。学校アンケートにより、図書館に購入してほしい資料や希望ジャンル、充実してほしい具体的な資料の把握に努め、学校からのリクエストに応じます。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充

取　　組	59　図書館見学・職場体験の実施					【拡充】
目　　的	見学や体験を通して図書館を知ってもらう。				中央図書館	
内　　容	小学校には図書館見学、中学校には職場体験の受入れを行います。 図書館見学は、学年やクラス単位で対応し、図書館ガイダンス、普段見ることのできないバックヤードや閉架書庫などの館内見学、スタッフによる読み聞かせなどを行います。職場体験は１回約３人を３日程度、図書館スタッフとして実際の業務を体験してもらいます。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充

取　　組	60　学校図書館連携強化					【拡充】
目　　的	学校図書館の運営支援を積極的に行い、図書館を魅力的な場所にする。				学務課・指導室 小学校・中学校 中央図書館	
内　　容	学務課、指導室、学校、図書館が連携し、学校図書館の運営を支援します。要望があれば、図書館サポーターを派遣して、書架整理、本の修理、ディスプレイ、読み聞かせのお手伝いをします。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充

取　　組	61　学校図書委員と図書館との交流					【拡充】
目　　的	交流の場を広げ、相互の図書館活動に反映する。				中央図書館 小学校・中学校	
内　　容	各図書館のエリアにある小・中学校の学校図書委員と区立図書館員の交流の場として、意見を交換します。また、学校の児童生徒が作成した冊子などを図書館で紹介するなど、相互の交流の場を広げていきます。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充

取　　組	62　読書通帳の活用					【継続】
目　　的	読書状況を可視化し、不読率の減少につなげる。				中央図書館 小学校・中学校	
内　　容	図書館では、タイトル、日付、書評を記載できるオリジナルの通帳を窓口で配布しているほか、図書館ホームページからもダウンロードができます。各学校では朝読書や授業、学校独自の読書ノートなどに活用し、読書の推進に取り組みます。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	配布	継続	継続	継続	継続	継続

取　　組	63　ボローニャ・ブックフェア inいたばし　☆					【継続】
目　　的	イベントを通して外国図書の魅力を伝える。				中央図書館	
内　　容	ボローニャ児童図書展事務局から寄贈された、世界の絵本を中心に展示するイベントを実施します。多方面と連携しながら、子どもから大人まで幅広い世代に、各国の文化・言語・芸術等を身近に感じ、気軽に楽しめる場を提供します。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充

取　　組	64　図書館ホームページの充実・ＳＮＳの活用					【継続】
目　　的	リアルタイムな情報を魅力的に伝える。				中央図書館	
内　　容	区ホームページをはじめ、各図書館のホームページやＳＮＳを活用し、常にリアルタイムな情報を更新し、見やすいページで、知りたい情報や工夫を凝らした様々な情報を発信していきます。					
年次計画	現状	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
	実施	拡充	拡充	拡充	拡充	拡充

読書通帳（中学生）

ボローニャ・ブックフェア in いたばし

『家庭読書の日』展示

アニマシオン（氷川図書館）

手作り絵本原画展

Facebook 等の SNS

第４章

参考資料

第４章　参考資料

第三期板橋区子ども読書活動推進計画検討委員会　設置要領

令和２年５月２５日
教　育　長　決　定

（趣旨）
第1条　この要領は、第三期板橋区子ども読書活動推進計画の策定にあたり、その内容を検討するため、板橋区子ども読書活動推進計画検討委員会（以下「委員会」という。）の設置について、必要な事項を定める。
（所掌事項）
第2条　委員会は、次に掲げる事項について検討し、教育委員会教育長に報告する。
（１）子どもの読書活動の施策に関すること
（２）板橋区子ども読書活動推進計画の策定に関すること
（３）その他必要な事項に関すること
（委員）
第3条　委員会は、別表１に掲げる委員をもって構成する。
２　委員会の委員長及び副委員長は学識経験者が務める。
（運営）
第4条　委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
２　副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。
（会議）
第5条　委員会は、委員長が召集する。
２　委員長は、必要があると認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。
（委員の任期）
第6条　委員の任期は、第三期板橋区子ども読書活動推進計画を策定した日までとする。
（事務局）
第7条　事務局は、別表２に掲げる委員をもって構成する
（庶務）
第8条　委員会の庶務は、教育委員会事務局中央図書館において処理する。
（その他必要な事項）
第9条　この要領に定めるもののほか、委員会について必要な事項は、委員の合意で定める。合意は、出席委員の過半数でこれを決定し、可否同数の時は、委員長の決するところによる。
２　この要領は第三期板橋区子ども読書活動推進計画を策定した日をもって廃止する。

別表１

役　　職	職　　名
委 員 長	学識経験者
副委員長	学識経験者
委　　員	地域教育力担当部長
委　　員	教育委員会事務局次長
委　　員	区立小学校代表
委　　員	区立中学校代表
委　　員	区立小学校ＰＴＡ連合会代表
委　　員	区立中学校ＰＴＡ連合会代表
委　　員	幼稚園代表
委　　員	区立保育園代表
委　　員	区立児童館代表
委　　員	図書館司書代表（３名）
委　　員	図書館サポーター代表

（１５名）

別表２

役　　職	職　　名
事 務 局	子ども家庭部　子ども政策課長
事 務 局	子ども家庭部　保育サービス課長
事 務 局	教育委員会事務局 学務課長
事 務 局	教育委員会事務局 指導室長
事 務 局	教育委員会事務局 生涯学習課長
事 務 局	教育委員会事務局 地域教育力推進課長
事 務 局	教育委員会事務局 中央図書館長

（７名）

第三期板橋区子ども読書活動推進計画検討委員会　委員名簿

役　職	職　名	氏　名
委 員 長	学識経験者	片岡　輝 （東京家政大学名誉教授）
副委員長	学識経験者	山口　謠司 （大東文化大学教授）
委　　員	地域教育力担当部長	湯本　隆
委　　員	教育委員会事務局次長	藤田　浩二郎
委　　員	区立小学校代表	阿部　ひろみ （区立蓮根第二小学校主幹教諭）
委　　員	区立中学校代表	北村　康子 （区立志村第四中学校長）
委　　員	区立小学校ＰＴＡ連合会代表	山田　貴之 （区立小学校ＰＴＡ連合会副会長）
委　　員	区立中学校ＰＴＡ連合会代表	秋葉　芳枝 （区立中学校ＰＴＡ連合会会長）
委　　員	幼稚園代表	田中　泰彦 （成増幼稚園長）
委　　員	区立保育園代表	根岸　順子 （区立西前野保育園長）
委　　員	区立児童館代表	金子　圭子 （区立氷川児童館長）
委　　員	図書館司書代表	日向　明子 （区立高島平図書館）
委　　員	図書館司書代表	髙松　杏 （区立氷川図書館）
委　　員	図書館司書代表	安川　まさ子 （区立蓮根図書館）
委　　員	図書館サポーター代表	吉田　和子 （朗読「わ」の会）

役　職	職　名	氏　名
事　務　局	子ども家庭部　子ども政策課長	雨谷　周治
事　務　局	子ども家庭部　保育サービス課長	佐藤　隆行
事　務　局	教育委員会事務局　学務課長	星野　邦彦
事　務　局	教育委員会事務局　指導室長	門野　吉保
事　務　局	教育委員会事務局　生涯学習課長	家田　彩子
事　務　局	教育委員会事務局　地域教育力推進課長	諸橋　達昭
事　務　局	教育委員会事務局　中央図書館長	大橋　　薫

第三期板橋区子ども読書活動推進計画検討委員会　検討経過

会　　議	開催日時	検討内容
第　1　回 検討委員会	令和２年 ９月 14 日（月） 14 時～	（１）第三期検討委員会開催スケジュール （２）第二期計画の進捗状況について （３）読書に関するアンケート調査（児童館・保育園・幼稚園）の実施について （４）第三期計画の目次構成について （５）その他 ①「小中学校取組状況等のアンケート」令和２年度 ②「読書についてのアンケート集計結果」（小学校・中学校）令和元年度
第　2　回 検討委員会	令和２年 11 月 11 日（水） 14 時～	（１）「読書についてのアンケート集計結果」（小学校６校）令和２年度 （２）「板橋区子ども読書活動推進計画 2025」策定のためのアンケート調査結果（小学校保護者） （３）各図書館における事業実施状況について （４）第三期計画期間における取組事業について （５）第三期計画の全体構成について
第　3　回 検討委員会	令和２年 12 月 18 日（金） 14 時～	（１）「板橋区子ども読書活動推進計画 2025」素案について （２）パブリックコメントの実施について （３）その他 ①「読書についてのアンケート」まとめ（中学校）令和２年度 ②次回開催日及び議題について
第　4　回 検討委員会	令和３年 ３月１日（月） 13 時 30 分～	（１）パブリックコメントの実施結果について （２）「板橋区子ども読書活動推進計画 2025」原案について （３）その他

平成十三年法律第百五十四号

子どもの読書活動の推進に関する法律

（目的）

第一条　この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする。

（基本理念）

第二条　子ども（おおむね十八歳以下の者をいう。以下同じ。）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

（国の責務）

第三条　国は、前条の基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

（地方公共団体の責務）

第四条　地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

（事業者の努力）

第五条　事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念にのっとり、子どもの読書活動が推進されるよう、子どもの健やかな成長に資する書籍等の提供に努めるものとする。

（保護者の役割）

第六条　父母その他の保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすものとする。

（関係機関等との連携強化）

第七条　国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

（子ども読書活動推進基本計画）

第八条　政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（以下「子ども読書活動推進基本計画」という。）を策定しなければならない。

２　政府は、子ども読書活動推進基本計画を策定したときは、遅滞なく、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

３　前項の規定は、子ども読書活動推進基本計画の変更について準用する。

（都道府県子ども読書活動推進計画等）

第九条　都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

２　市町村は、子ども読書活動推進基本計画（都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画）を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

３　都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。

４　前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画の変更について準用する。

（子ども読書の日）

第十条　国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。

２　子ども読書の日は、四月二十三日とする。

３　国及び地方公共団体は、子ども読書の日の趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。

（財政上の措置等）

第十一条　国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

附　則

この法律は、公布の日から施行する。

板橋区子ども読書活動推進計画 2025

編集　板橋区教育委員会事務局中央図書館
〒174-0071　板橋区常盤台四丁目３番１号
TEL 03-6281-0291　FAX 03-6281-0244
chuolib@city.itabashi.tokyo.jp
令和３年５月発行

刊行物番号　R03-25

板橋区教育委員会　〒173-8501 東京都板橋区板橋二丁目66番1号　URL **https://www.city.itabashi.tokyo.jp/kyoikuiinkai/index.html**